

優 名

城

秀 大

学

作 建

品 築

学

集 科



**Department of
Architecture
Meijo University
Yearbook 2018**

2018 年度建築学科優秀作品リスト

〔卒業設計〕

●最優秀賞

梶浦 悠翠 「妄想都市ノ解体絵図～抽象画から見た都市空間の気づき～」

●優秀賞

吉田 源基 「火影ノ交流都市～火災跡地における地域性を帯びた機能的都市計画～」

上野 純 「再編集住居～ House for Mikkabi ～」

●アーキテクト賞

古家 翔吾 「追憶ノ家-失われた時を求めて-」

●奨励賞

加藤 大稀 「分家住宅の振る舞い方～東端人の生活風景の解釈と設計～」

浅井 唯那 「八橋ノ音景編集～設楽ダム建設のため水没する八橋集落の音環境の再構築～」

●特別賞〈環境賞〉

棚橋 由紀子 「風が織りなす景色～地域文化を伝える拠点の提案～」

〔設計課題〕

－ 2 年生課題 －

2-1 自室

市瀬 智之 / 児玉 成美 / 長谷川 将規 / 山本 梨乃

2-2 交流施設

大澤 綾彩 / 木村 佐和 / 城元 海輝 / 長谷川 真央 / 山田 明日香 / 山本 梨乃

2-3 住宅

大澤 綾彩 / 芝村 有紗 / 長谷川 真央 / 箕浦 直

2-4 近隣施設

大見 果 / 後藤 拓馬 / 玉田 朱乃 / 山本 梨乃

－ 3 年生課題 －

3-1 集合住宅

伊藤綾奈 / 早川大貴 / 奥村匠真 / 山下隼矢

3-2 インターナショナルスクール

水谷 匠磨・溝淵 蓮・山下 隼矢 / 半澤 龍・伊藤 綾奈・生田 めぐみ /

鎌内 咲甫・久保 響子・牧野 明日香 / 奥村 匠真・改井 遥花・加藤 駿一

3-3 体験・滞在型余暇活動施設

五十川 雄貴 / 久保 響子 / 早川 大貴 / 水谷 匠磨

3-4 都心複合施設

川村 航大・鈴木 将太・溝淵 蓮 / 阿知波 拓・原田 祥吾・宮本 一平 / 新井 峻太・飯田 兼都・改井 遥花

石塚 万純・伊藤 綾奈・木村 仁美 / 奥村 匠真・早川 大貴・林 果凜 / 生田 めぐみ・河合 息吹・鷺田 萌乃

－ 4 年生課題 －

4-1 フィールドワーク演習

梶浦 悠翠 / 水谷 真由美

4-2 建築・リノベーション演習

鳥居 寛 / 水谷 真由美

本書は、名城大学建築学科・大学院建築学専攻の学生の研究・学習成果をまとめたもので、

・修士論文

・卒業論文

・卒業設計

・学部課題

の4つのトピックにより構成されています。

修士論文は、建築の専門家として研究成果を社会に発信するものになります。

建築学科・建築学専攻が所属する理工学分野においては、

4年間の研究に加え、より専門的な知識を求めて大学院に進学する例は少なくありません。

学生生活の集大成である修士論文は、

専門家として、建築の可能性を投げかけるものでもあります。

本年は各研究室から特に優秀な論文として推薦された3名の論文を掲載しています。

卒業論文は、4年間をかけて学んだ建築の専門知識の集大成です。

長い時間をかけて仮説の立案と検証を繰り返すことで、建築学に新たな知見を与える研究を書き上げます。

その過程は、自ら課題を見つけ、実験やリサーチを通して検証を行い、その結果を考察し更なる向上のタネを

見つけるというもので、今後、社会で広く活躍していくために必要な思考方法の鍛錬でもあります。

卒業設計は、学部4年間の学習の成果になります。

現代社会の課題や魅力に対して、自らの提案で社会に新たな可能性を提示するものです。

4年間かけて育んできた設計技法を活かし、未来を見据えた提案を行うことで、

社会に出てからも重要となる、自身の空間デザインの原点を探求することを求めています。

学部課題は、未来に向けた柔軟な発想を育むとともに、建築の設計スキルを磨くものです。

卒業後にどんな進路に進むのであれ、

建築を建てるためには、図面を引き、それらを読み解くスキルが不可欠となります。

建築に携わる者としての基礎的技術を養うとともに、

未来を背負っていくような可能性を持った学生の育成を目指しています。

学生の努力の結晶である本書を通して、

学外の方々に本学科・専攻の活動を見ていただき、叱咤激励やご感想をいただければ幸いです。

名城大学建築学科作品集 編集担当 佐藤布武

写真：卒業設計審査会の様子

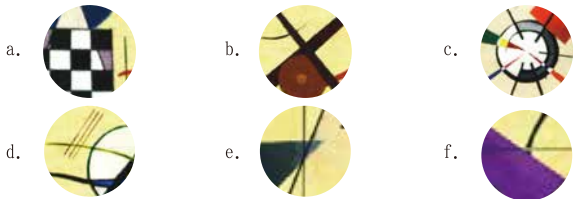
梶浦 悠翠

妄想都市ノ解体絵図

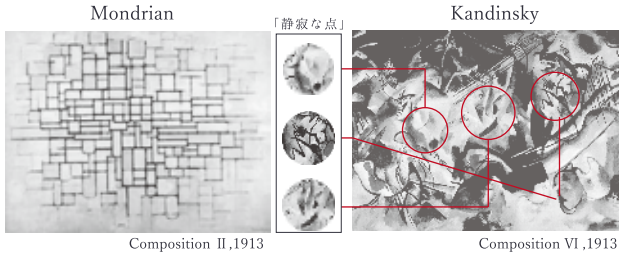
- 抽象画から見た都市空間の気づき -



地図をキャンパスと見立て、抽象画を作成する。そこには具象のような予定調和は存在しない。計測されない感覚に身を委ねることで都市において、新たな建築の可能性を提示していく。



※抽象表現が生まれた時代、多くの画家は消失点を無くしていたのに対し、カンディンスキーは具象画と同じように抽象画にも全体を構成するために必要な要素が凝縮された点、いわゆる静寂な点の存在を主張していた。



この提案は、「抽象画」という観点から都市、建築を見ることで従来の都市計画とは全く異なる都市の見方を提示する。そして、都市の魅力に気づくフォーリーを計画することで、都市に対する漠然としたイメージの解体を目指す。

2. 敷地選定：愛知県名古屋市

2-1.<地>-キャンパスへ変換

地図をキャンパスと見立てることで、都市の全体像をあぶり出す

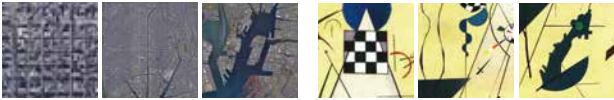
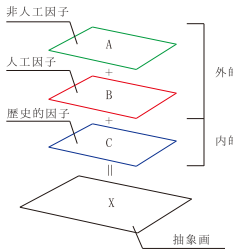


2-2.<図>-全体抽象画の制作

空中写真から分かる貌（外的）は素直に線でなぞり、写真ではわからない歴史的事象（内的）は色面によって表現していく。次に、線同士の響きや、線と面が持つ内力を意識しながら整え、全体抽象画を制作する



名古屋市の全体抽象画（1000×803 mm）



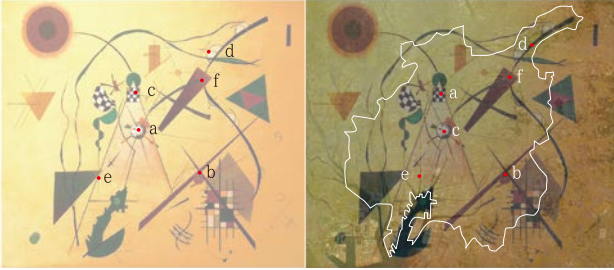
抽象化

2-3.<図>-W.kandinskyの静寂な点

全体抽象画に静寂な点をプロットする

2-4.<地>-地図に還元

キャンパスを地図へ戻すことで、絵画上重要な点（＝静寂な点）は都市が構成される重要な地域と解釈することができる



	人工	自然	歴史
a. 長者町商店街	◎	△	◎
b. 戸笠公園	○	○	○
c. 金山駅	◎	×	△
d. 小幡緑地	×	◎	○
e. 名古屋港	◎	○	△
f. 猫ヶ洞墓地	○	○	◎

名古屋市の全体抽象画では6つの点が見られ、表のような特徴がまとめられる。静寂な点は本設計の計画敷地となる

3. 敷地抽象画の制作

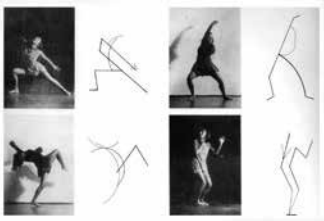
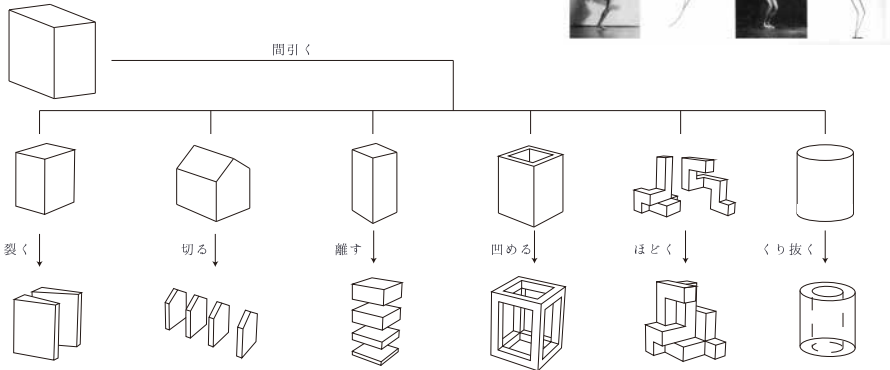
敷地	a. 長者町	b. 戸笠公園	c. 金山駅	d. 小幡緑地	e. 名古屋港	f. 猫ヶ洞墓地
敷地抽象画 (400×300 mm)						
気づき	「すきま」	「出会い」	「見上げる」	「己の領域」	「童心」	「己を見つける」

都市の魅力を他者と共有するツールとして敷地抽象画を”その場”で制作する。名古屋では6つの敷地×12h×2dの計144時間をメ切とし、写真では伝わらない敷地の色や音、風や形態などさまざまな感覚に影響されながら描き、感じた気づきをまとめる。敷地抽象画に恣意性は含まれるが、他者と抽象画を通し、類似や疑問、推測によって都市との対話を図る。

作者は都市空間の中で心落ち着かせるささやかな場所を設けたいと願い、フォーリーという小さな、脆弱な、プログラムなき建築を挿入した。本作では、絵画という新たな地図を作成することで、既存の都市計画とは異なった視点での都市の魅力を発見しようとしている。また、絵画という敷地調査手法を生み出し、その結果として小さなフォーリーを製作している。夢物語で現実と乖離したプロトタイプとしての作品ではあるが、自身の都市への疑問と真摯に向き合い、誰かの心に寄り添う建築空間を提案したことに意義がある。都市の安息の場を模索し、表現した作者を祝福する。（佐藤布武）

4. フォリーの設計

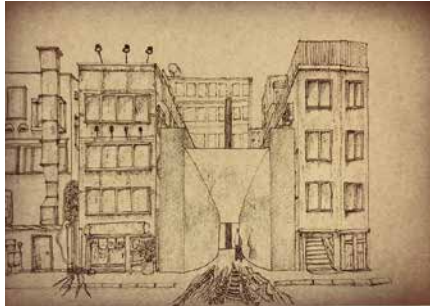
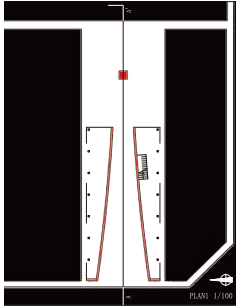
気づきを建築の機能として与え、抽象画がある具体を捨象して描かれるように都市のイメージとして最も簡素な直方体を間引いてボリュームスタディを行い、形態を決めていく。最終的に気づきが感じられるようにおさめる。



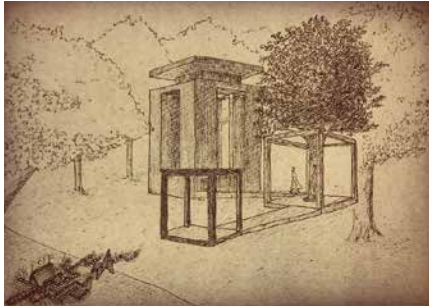
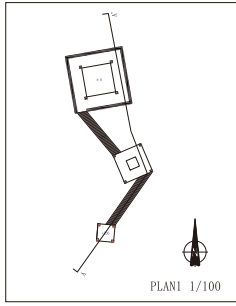
5. 本計画の可能性

建築は常に芸術と進歩し、芸術表現の一種として時代を駆けてきました。しかし、現代では芸術を置き去りにし、産業として発展してきたため都市は科学の対象となりました。都市は、そして世界はもっとファンタジーに満ち溢れるべきだと私は思います。頭だけで考えられた都市であるから人はより高度で、複雑で、絶望的であると、自分には理解できないものだから関係ないとして、見て見ぬふりをする。そんな気がしました。そのため私は頭を固くして都市を見るのをやめて、平行世界に存在するもう一つの地図を表現しました。私たちが勝手な妄想によって生み出された都市のイメージを解体していくことで今ある都市を少しでも愛することができるかもしれません。

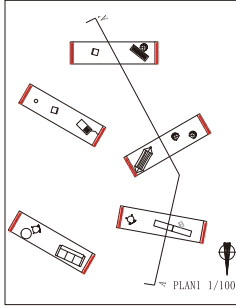
a. 長者町



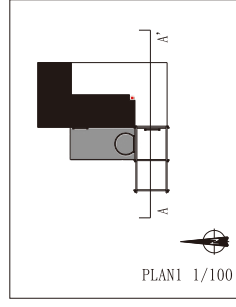
d. 小幡緑地



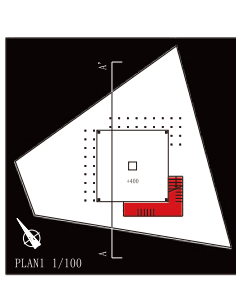
b. 戸笠公園



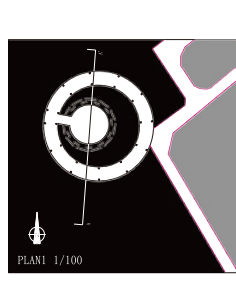
e. 名古屋港



c. 金山駅



f. 猫ヶ洞墓地



上野 純

再編集住居

-House for mikkabi-



みかん農業で有名な静岡県浜松市三ケ日町に「町のための家」を設計した。地域住民や町に訪れる多様な他者を積極的に迎え入れることで、縮小へと向かう町を再編集し、新たな関係と話題性を生み出す家である。



ある地方を一つ取り上げ、「その町の為の家」を設計する。

家族のみを許容する家から、地域住民や町に訪れる多様な他者を積極的に迎え入れることで縮小へと向かう町を再編集し、新しい関係や話題性を生み出す家である。

「生活」や「生業」が実感できない閉じた箱物系の公共施設ではなく、地域住民にとって身近な存在である「家」が町に開かれることで「生活」や「生業」をより強く実感し、その町固有の文化や知恵を次世代へ繋ぐ建築を目指した。

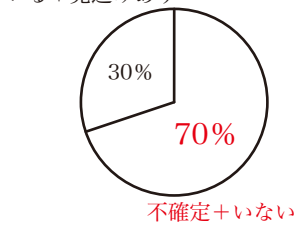
01 site : 静岡県浜松市三ケ日町



02 現状: 縮小へと向かうみかん農家

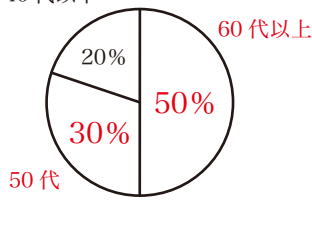
「後継者はいるか」

いる＋見込みあり

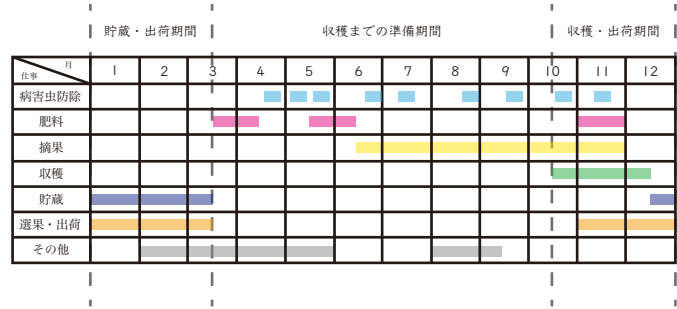


「就労者の年齢」

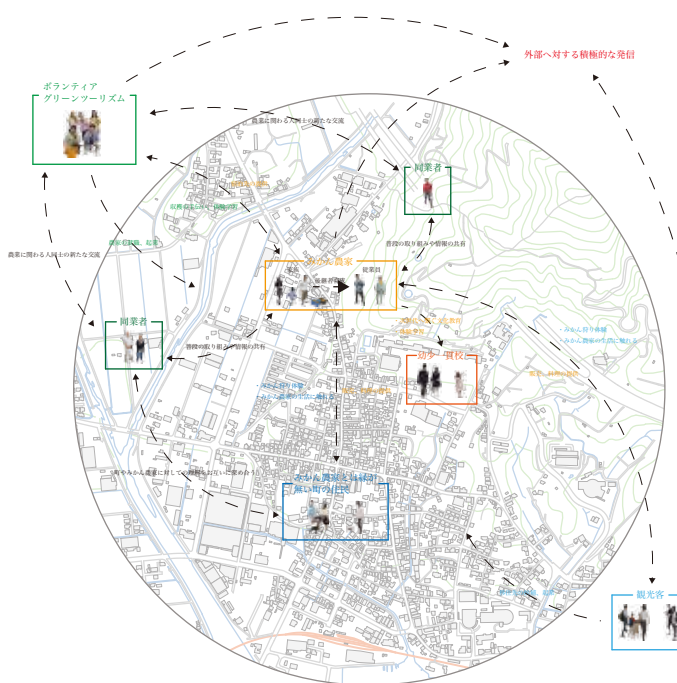
40代以下



03 農家の一年: 定期的な繁忙期



04 提案: 町を再編集する家



05 観察: 町の個性の発掘



本作では、移住家族の住宅が地域へと開かれ様々な人が集い関与する空間として設計された。マスタープラン的に示される大がかりな「まちづくり」よりも、小粒であろうとも個々が建物を開き発信し、それが繋がって行くことこそが現代のまちづくりに相応しいと考えた提案である。作者は周辺の建築や農業の設えを収集分析し、断片化しながら建物の中に織り込んだ。個々の要素に暗示される慣習的な意味合いや、素材の経年変化の違いなど、複雑な情報や状況を相乗的に集合させており、関わる人々に、より豊かな関わりしろを提供している。(生田京子)

今回の設計では、「折衷主義」の考え方を応用している。

しかし、右写真の Sir John Soane 邸を代表する町の文脈や時間軸と切り離す様な建ち方ではない。この家を構成する要素は町の個性を発掘するように作られ、敷地周辺を頼りにして統合されている。だからこそ、各々の要素は地域に根付き、「その町らしい」アクティビティや経年変化などを誘発する。折衷主義の建築が持っている情報量の多さや工法の複雑さを、その町らしい生活の豊かさや様々な人からの愛着の獲得へと繋げることが出来ると考えた結果である。

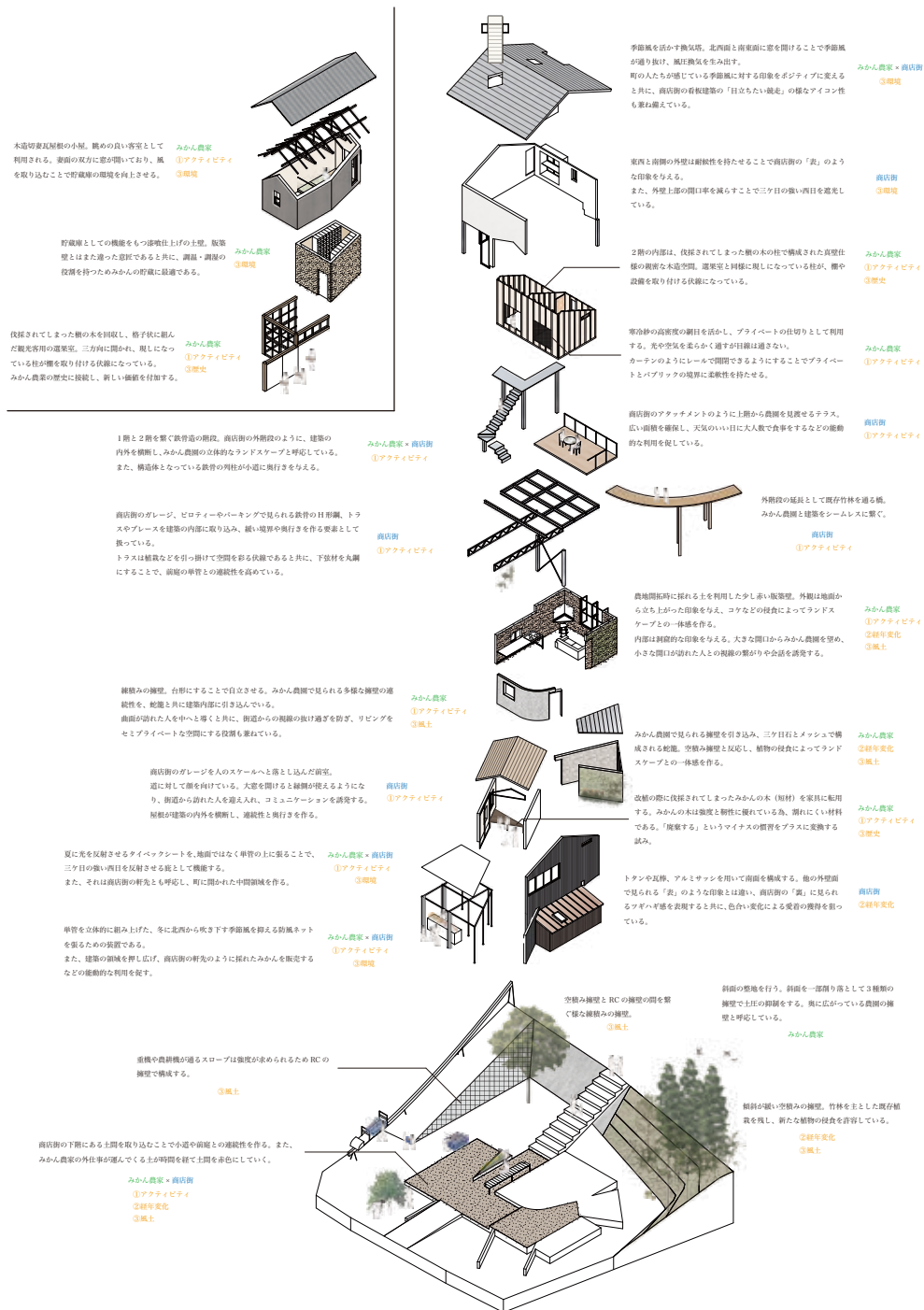


06 設計: 三ケ日と強く接続する住宅

Phase 1: 納屋と前庭を持つ三ケ日の農家住宅の型を用意する

Phase 2: 敷地周辺のリサーチから得た町の固有性を基に建築を構成する要素を設計する

Phase 3: 敷地周辺や要素同士の組み合わせを手掛かりに型と要素を統合する



古家 翔吾

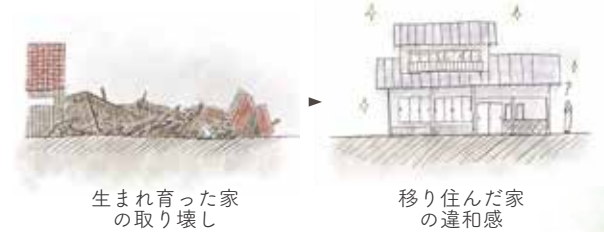
追憶ノ家

- 失われた時を求めて -

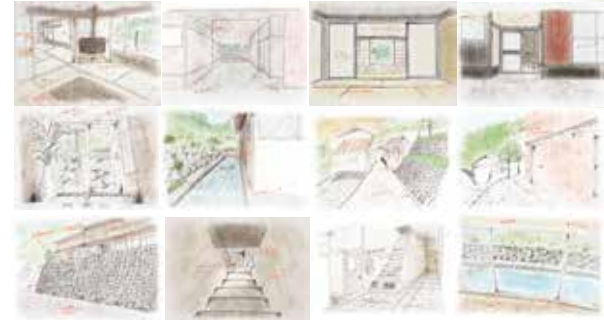


生まれ育った家の消失を背景とし、移り住んだ土地で記憶の引き継がれた家の設計を行う。記憶の引き継がれた新たな家での生活は、ふとした日常に暖かさや懐かしさを感じる。それらは家族の生活の変わらない強度となり、これからの生活を支えてくれるだろう。

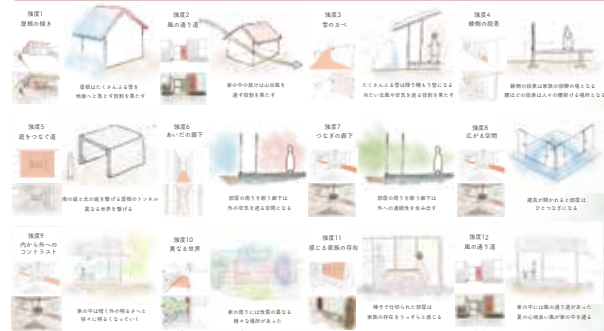
■背景：失われた私の家



■設計手法：ドローイングによる記憶の抽出



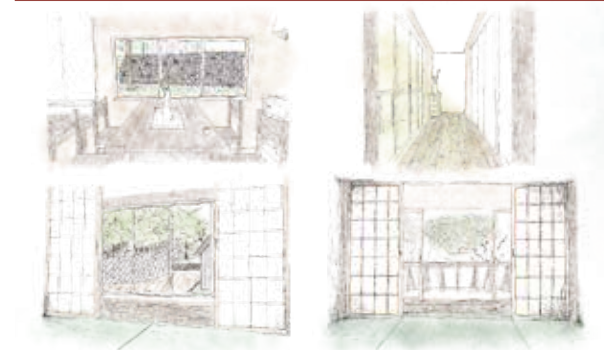
■設計要素：背景化していた生活の強度



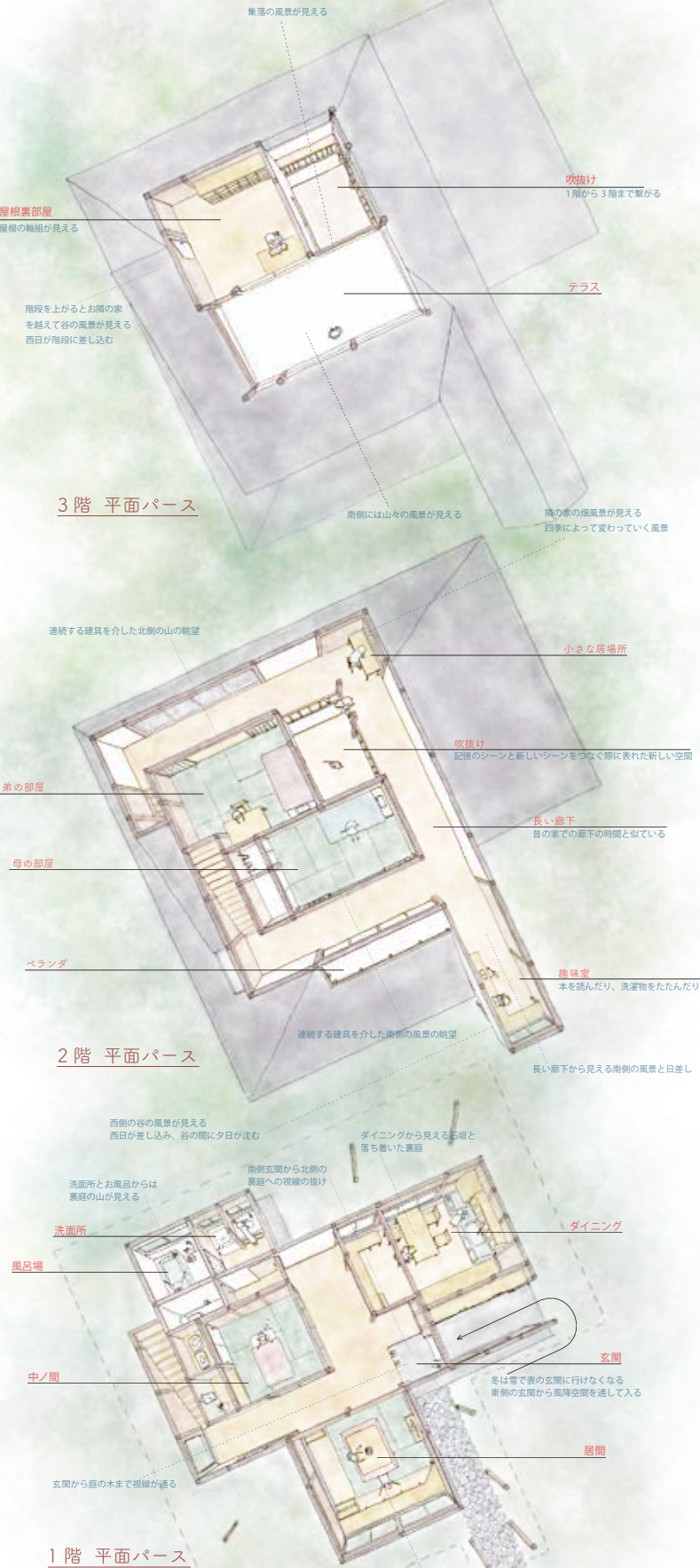
■リサーチ：記憶のすり替え対象となるコンテキストの発見



■パース：新しい家に流れる昔の家と同じ時間



■平面パース



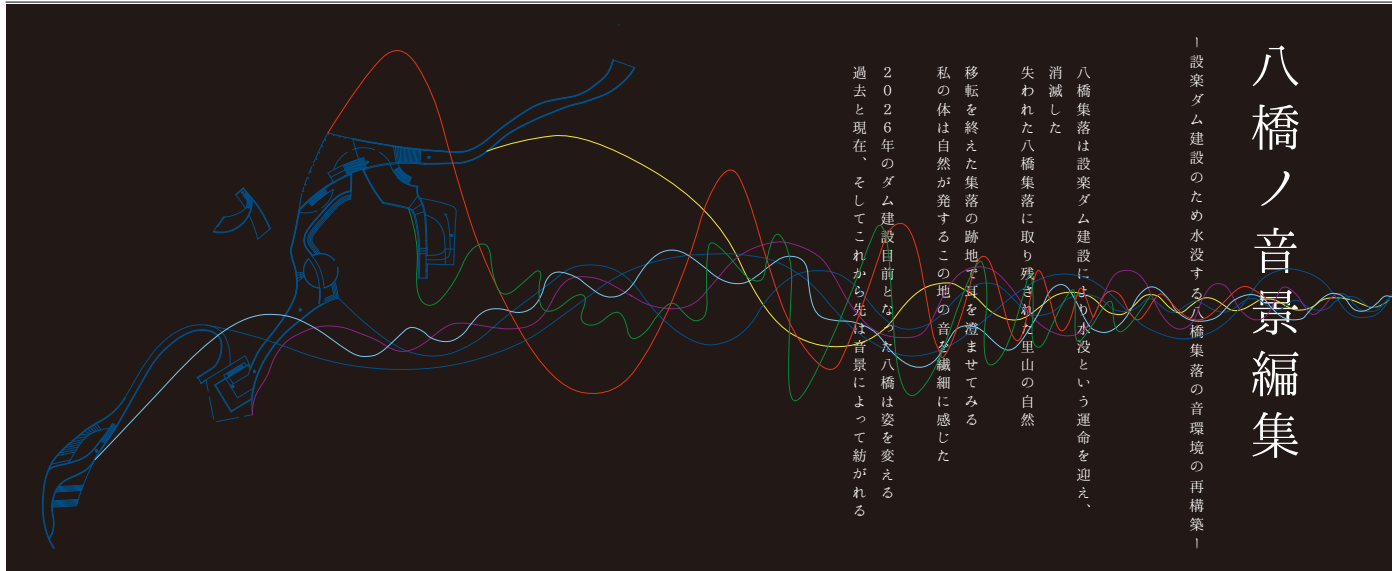
浅井 唯那

八橋ノ音景編集

- 設案ダム建設のため水没する八橋集落の音環境の再構築 -



音によって過去の記憶を連想することは誰しも経験があるだろう。ダム建設により水没を迎える集落の跡地に残された環境音という土地の記憶を、音を体感する空間装置の挿入によりこの地に生き続けさせる提案である。



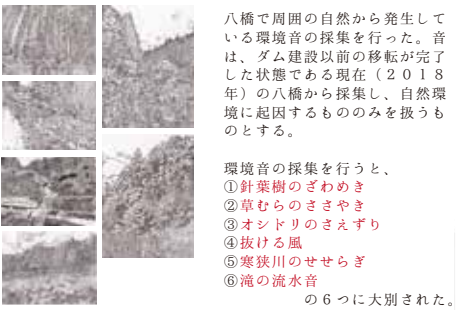
0 | 提案：音と感情

「音は感情と深く結びつくものである」

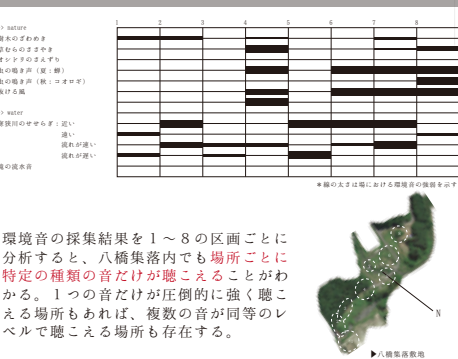
1 | 対象敷地 設案ダム建設により水没する「八橋」



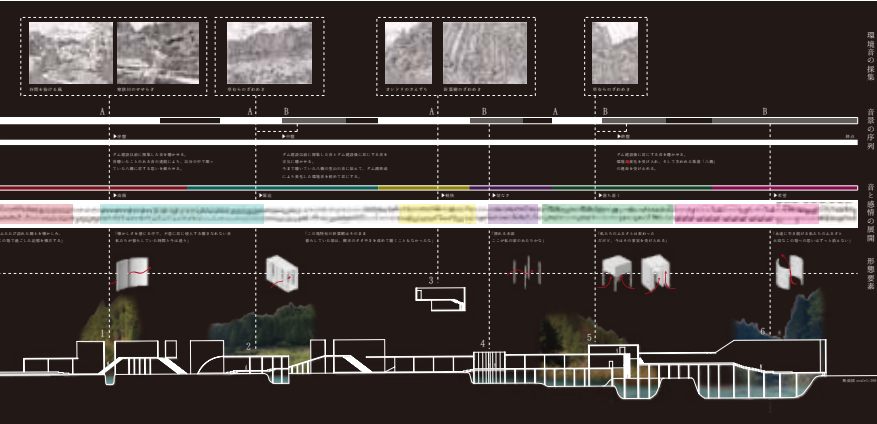
2 | 八橋集落の音採集



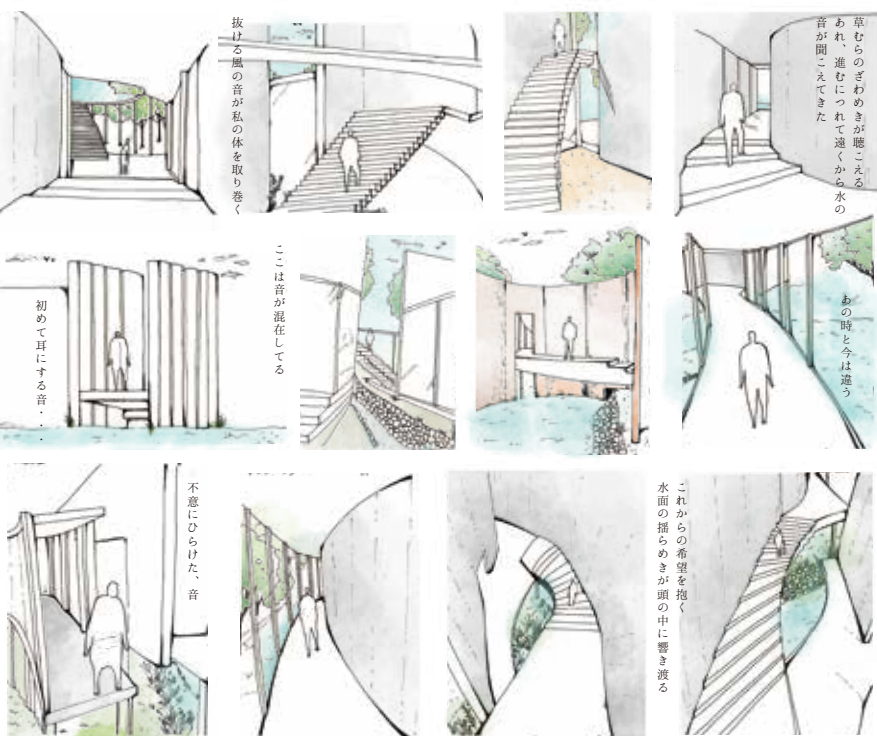
3 | 採集した音の分析



4 | 音景の編集手法（空間装置の配置）



5 | 音の装置を巡るシーケンス



加藤 大稀

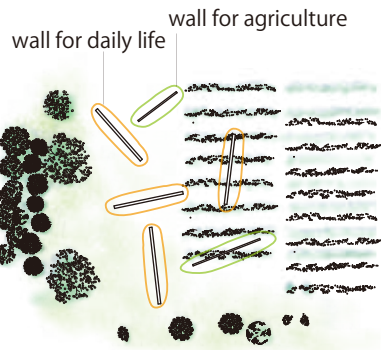
東端の躯体

- 東端人の生活の風景の分析とそれを用いた住宅の設計 -



住民全体が緩やかな血縁関係で結ばれている町においての分家のための住宅の設計に際し、彼らの生活の風景を分析し、図式的な建築と地域の風景の融合を試みる。この設計を通して新しい地域性のあり方の発見とその延長にいかにより新しい生活像を提案できるかを示す。

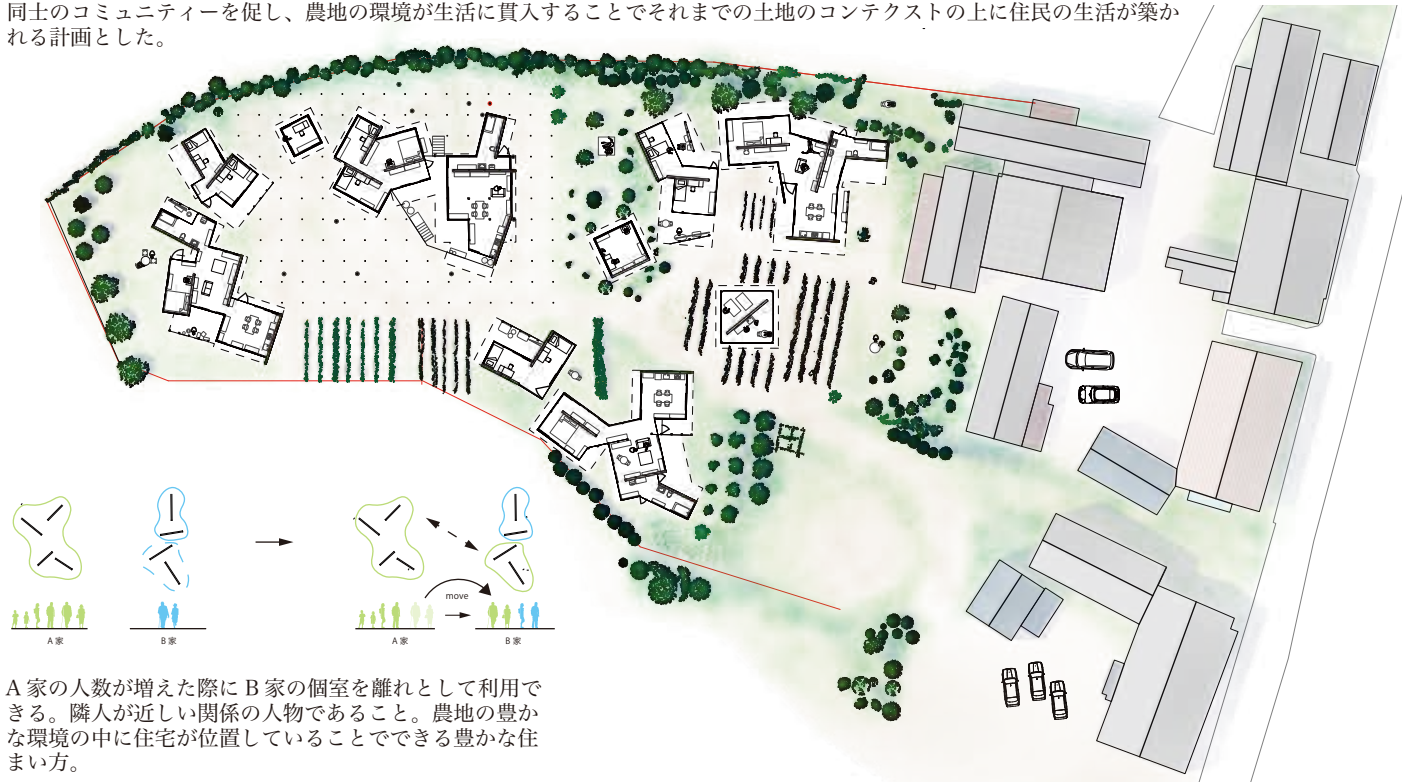
ささやかな風景を収集→分析→設計操作を導いた



壁にものが置かれることで空間が緩やかに規定されていること様々な風景入り乱れている。農業の壁と生活の壁を設定し、農地に人の居場所を緩やかに規定する。

計画

老夫婦が管理する農地に夫婦の子供世帯が生活する住宅を計画する。複数の世帯で共用の離れなどを計画することで血縁者同士のコミュニティを促し、農地の環境が生活に貫入することでそれまでの土地のコンテクストの上に住民の生活が築かれる計画とした。



A家の人数が増えた際にB家の個室を離れとして利用できる。隣人が近い関係の人物であること。農地の豊かな環境の中に住宅が位置していることのできる豊かな住まい方。



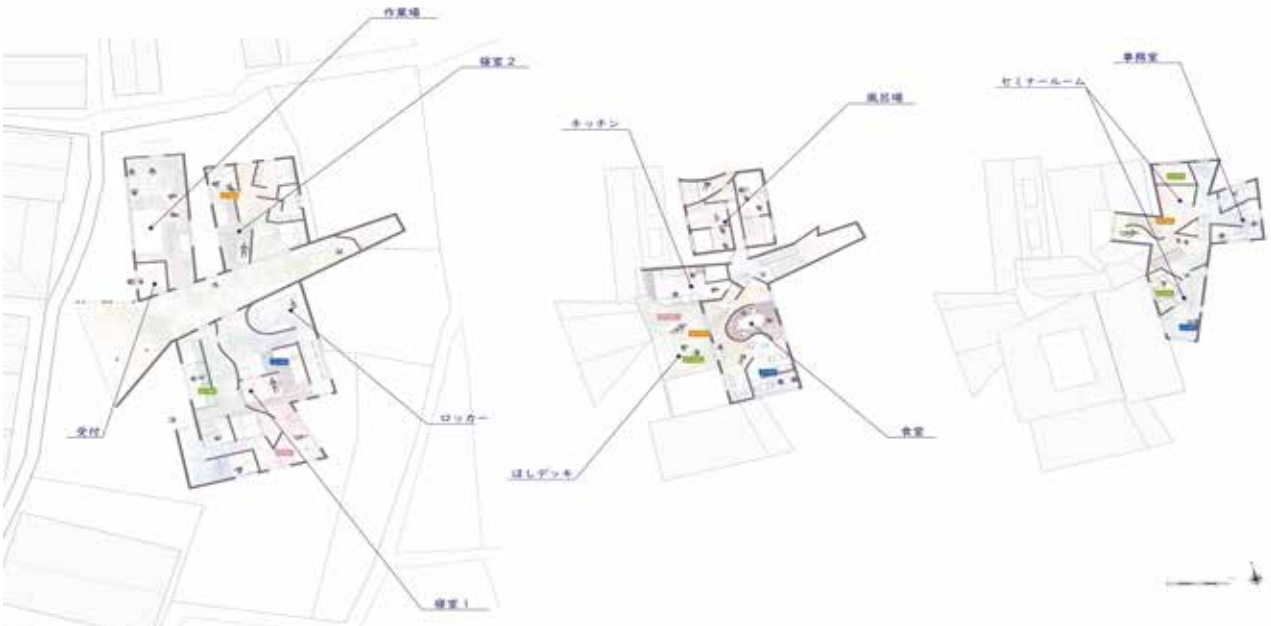
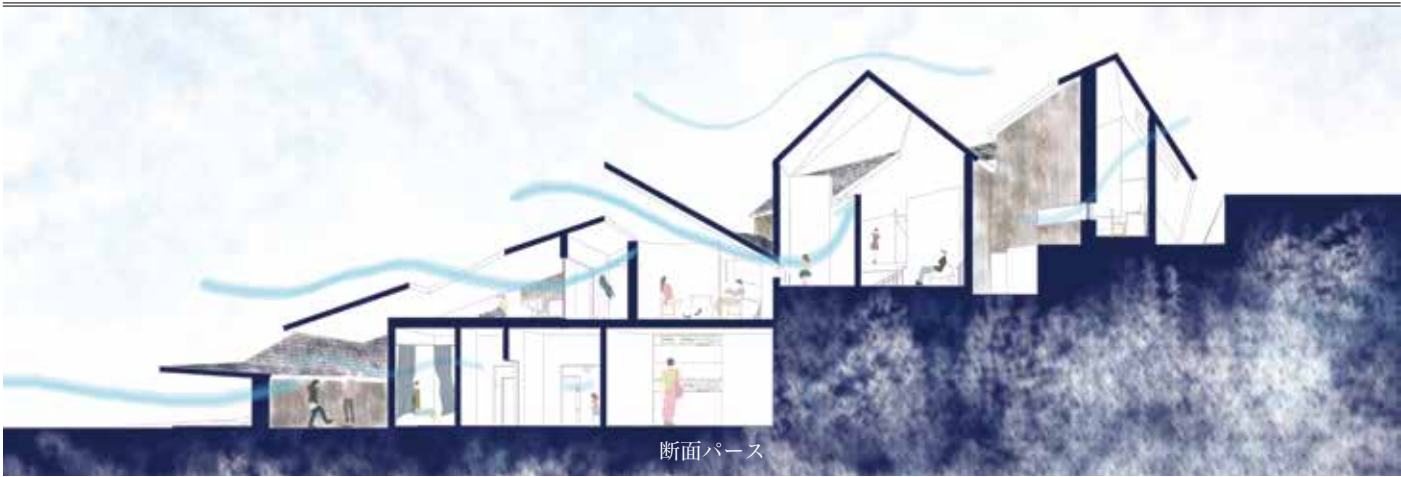
棚橋 由紀子

風が織りなす風景

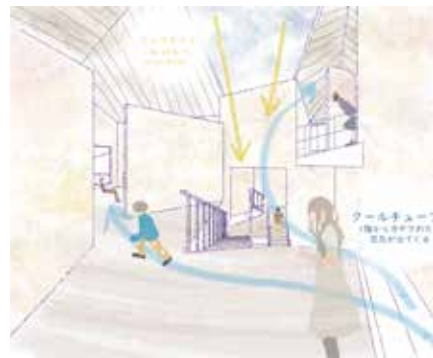
- 地域文化を伝える拠点の提案 -



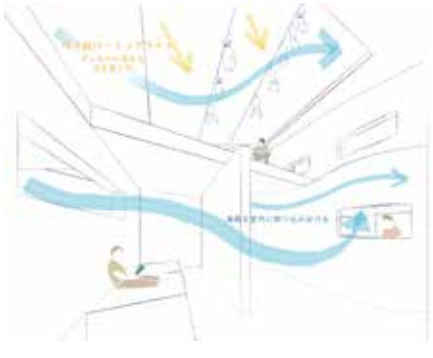
龍ヶ迫地区の地域資源である『風』を利用した、体験型宿泊施設の提案。集落と外部の人を繋げる接点として機能するとともに、普段は忘れてしまっている様々な風を顕在化させ、風との付き合い方を伝承する。



各階平面図



イメージパース①



イメージパース②



イメージパース③



敷地模型



詳細模型



風洞実験の様子

名城大学建築学科では、2 年前期から具体的な建築物の提案を求める設計課題を実施している。

1 年生は製図の基本を学ぶ時期としており、図学の基本や有名建築の図面を通して作図の基本を学ぶとともに、線 1 本がもつ意味の探求を行なっている。

2 年生は主として手書きと模型による作品制作を課している。3Dcad やレンダリングソフト、BIM の普及など、PC で表現できることの可能性は拡がりつつあるが、同時に、手で図面を引きその場でスケッチ等を用いて現場打ち合わせをするスキルも改めて重要視されている。そのため、2 年生の 1 年間は、きちんとした製図、スケッチ技術を養う機会としている。前期の設計課題は自室の設計と交流施設で、建築の柔軟な発想力が求められる。後期は住宅と近隣施設の設計で、必要とされる諸機能が増えると同時に、より専門的な知識や建築構成力が問われる。

3 年生はコンピューターを駆使した高度なプレゼンテーション能力を養う機会としている。3 年前期は集合住宅とインターナショナルスクールという、小さな単位が反復することで大きな規模の建築が形成されるビルディングタイプの提案を求めている。後期には郊外の宿泊滞在施設と都心複合施設の設計を行う。全く異なる周辺条件に対して、どのようにして建築を構成するのか、広い視座を持った計画力が問われる。以上のように 3 年生の設計課題は、建築が立地する地域の社会状況を意識する機会でもある。

4 年生では、現代社会が抱えている課題として、「街の活性化」「リノベーション」の二 2 課題を扱っている。名古屋の老舗商店街である円頓寺商店街を対象にまちあるきから設計までを行う演習と、リノベーションの現場と連動した演習を実施することで、現代社会が抱える課題への建築的提案を行う。

以上のような設計演習を通して設計能力を高め、広く社会で活躍する人材として旅立ってくれることを願っている。

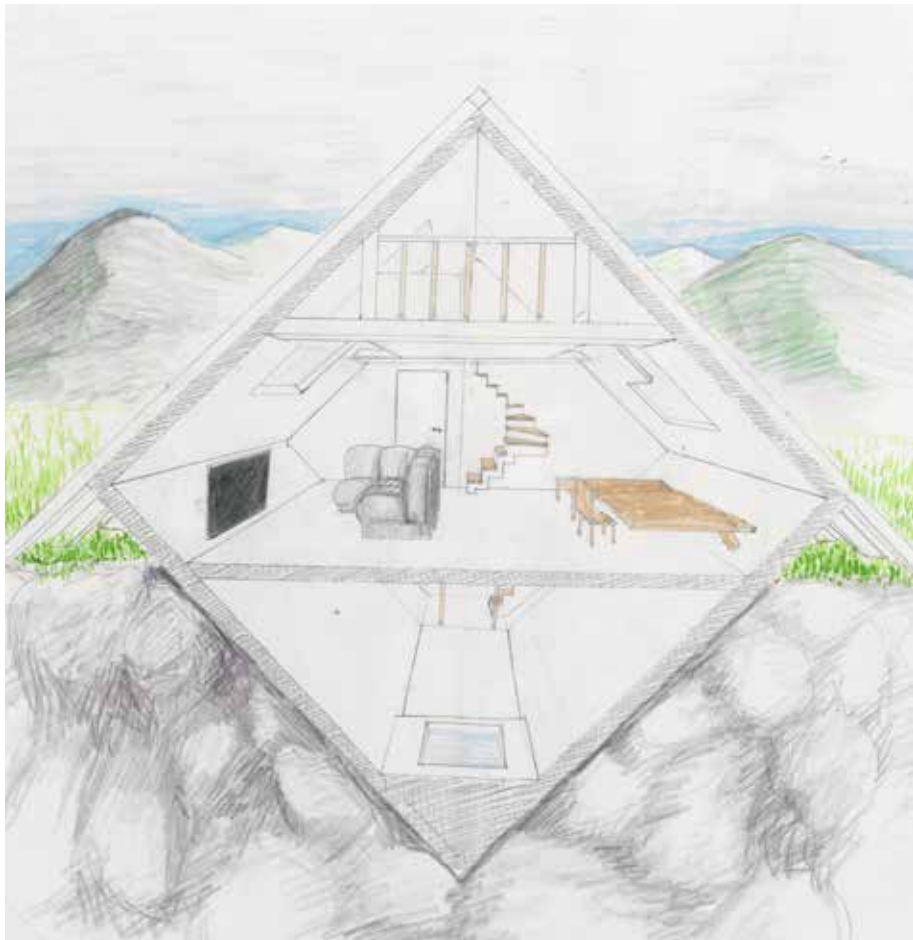
Grade 2

基本空間デザイン 1 / 2 年前期 / 第 1 課題	今回、あなたは 初めての設計課題として、5 m 立法の自由に使用できる空間が与えられる事になった。このスペース・空間の中で、貴方の生活空間を自由に構想してほしい。近くに親がいる主屋があり、三度の食事の心配は幸いな事に、いらない。 各自のライフスタイルや趣味などを反映した貴方だけの「 5 m 立法の自己の生活空間を考える。 」・・・自室の設計課題である。 周辺環境や敷地形状などの想定は自由である。
自室の設計	
担当教員 生田京子、香川賢一、向井一規、吉村真基	

基本空間デザイン 1 / 2 年前期 / 第 2 課題	本課題では塩釜口駅付近の、街の新しい顔となる建物をデザインしてほしい。
交流施設の設計	敷地は、塩釜口駅の出入口に接する。塩釜口駅付近は、様々な店や駐車場が混在し、賑わいがある一方で、統一感もなく、どこか街の個性を感じづらいエリアとなっている。
担当教員 生田京子、香川賢一、向井一規、吉村真基	この街に、学生と地域の人が共に使用し交流する空間を構想し、新たに街を活性化させるような建築を考え て欲しい。

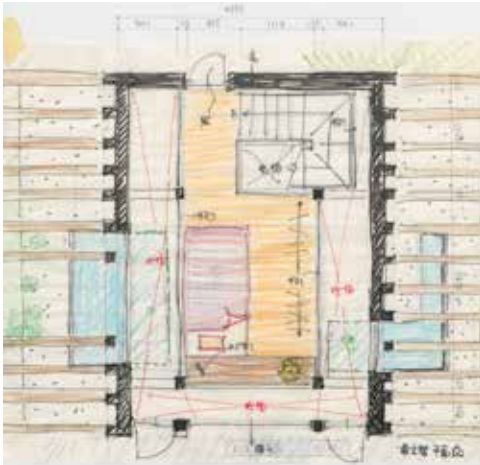
基本空間デザイン 2 / 2 年後期 / 第 3 課題	“将来の自分の家”について、考え、提案する。
住宅の設計	作品の中には、人間の営みに対して、自身のもつ普遍的な人生観も当然反映される。 また、具体的な設計立案に際しても、我流の好みや機能的なワリキリ等に妥協せずに、真に、自分の個性を主張し、少々、知的であり、普遍性もあり、家族がそこに集まって生活している温かさやこだわり等が伝わってくる。そんな新しい住宅の提案を求めている。
担当教員 佐藤布武、丹羽哲人、諸江一記、橋本健史	

基本空間デザイン 2 / 2 年前期 / 第 4 課題	「コミュニティ」とは何か。
近隣施設の設計	本課題では、諸君がひとり一人の住民の立場にたって、一つの地域コミュニティ施設の設計提案を行うこととする。
担当教員 佐藤布武、丹羽哲人、諸江一記、橋本健史	2016 年には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された、名古屋では有数の歴史的町並みが残されている有松地区を敷地とする。敷地周辺だけでなく旧東海道の歴史的町並みも歩き、町の空気を感じとりながら設計に取り組んでほしい。



OCEAN HOUSE
市瀬 智之

目前に海の広がる丘に建つコテージをイメージした。5m 立方を 45 度傾けることで 3 階建て分の高さとし、2 階に広い空間を確保できた。傾いた立方体の側面に沿って切妻屋根を設けて、よりコテージらしさを表現した。



蔵書 めくもりを纏う家
児玉 成美

わたしの好きな本を心地よい空間で読む為に必要な要素を取り入れられる空間として、中央に吹き抜けを設け、開放的な空間を意識した。床だけでなくスキップフロアなど、どこでも本を読めるような空間とした。





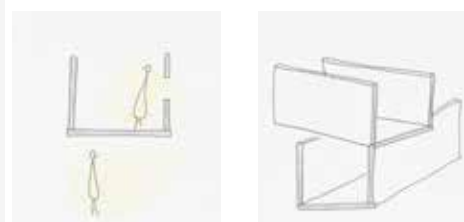
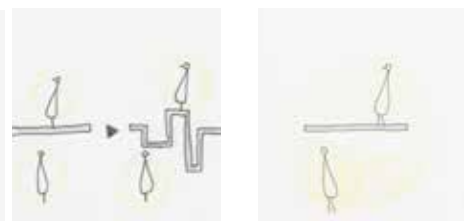
Switch Intermittent
長谷川 将規

5mを上下二つに分け、その2つをそれぞれ違う形で4つに分けて8個のボリュームを作り角度を振った。ボリュームを離すことにより分棟になる。ボリュームの間に空間ができることにより新たな活動、見え方が生まれた。



繋ぐ
大澤 綾彩

この施設の1階は個人の趣味や特技を生かした日替わりの小さなショップが開かれ、訪れた人との交流が生まれる。2階にはカフェがあり、大学のサークル活動などの発表を見ることのできるステージがある。



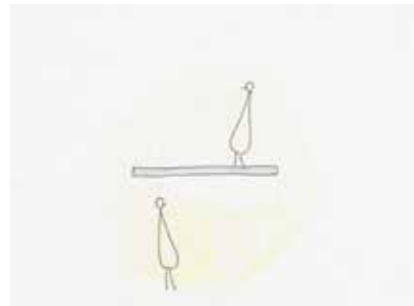
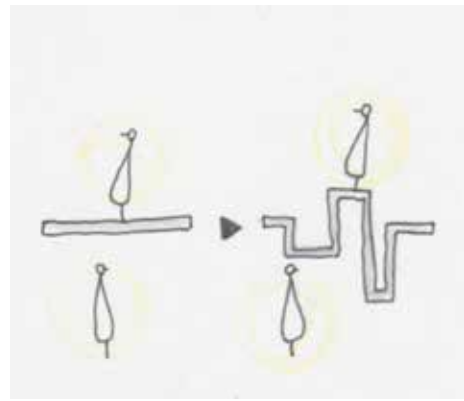
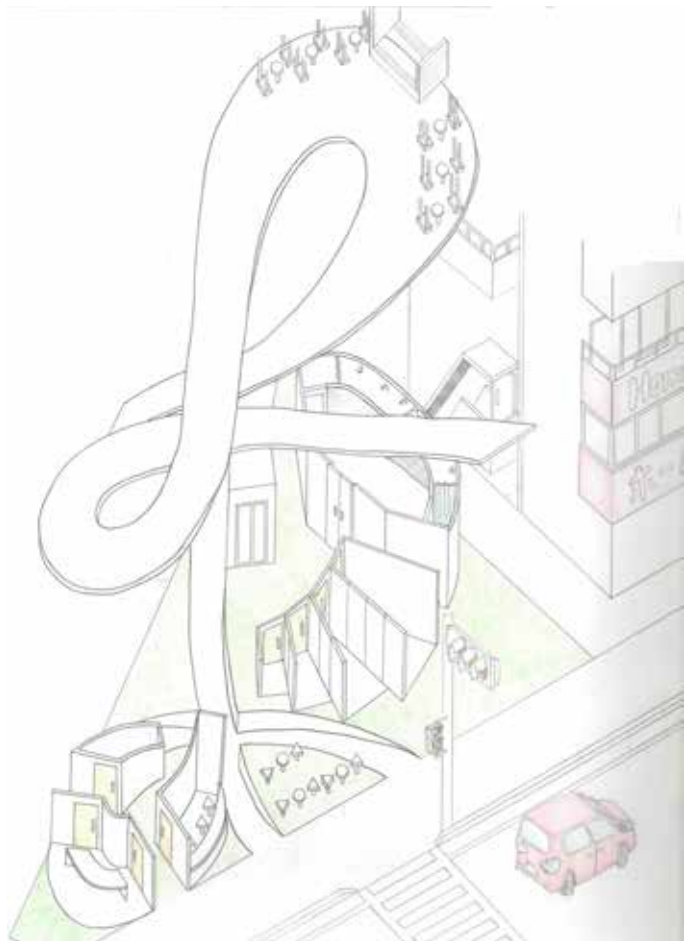
ツクるとヒラく
山本 梨乃

なにかものをツクリ、私はまちにヒラかれていたい。まちを行き交うひとは、行き詰まったときの私を支えてくれる。ひととの関わりを増やしながら。だけど私の生活を守りながら。コのかたちが私の願い、ツクるとヒラくをいろどっていく。



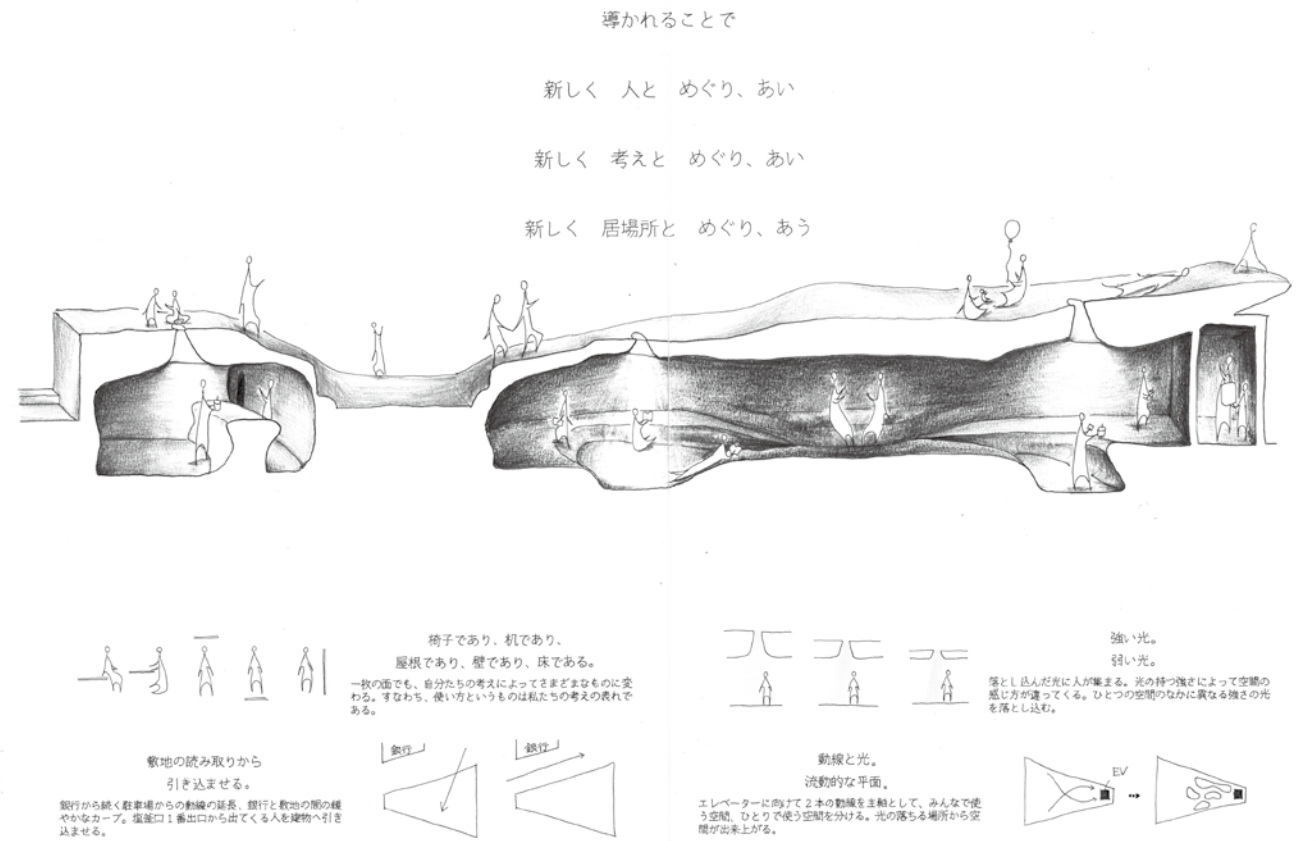
糸の木
城元 海輝

1本1本の糸（カボコーマ）によって、大きな建物を支えている。この建築物の様に、ここに来る人が一つ一つの小さなことの積み重ねによって、大きなことを成し遂げてほしいという想いでこの建物を設計した。



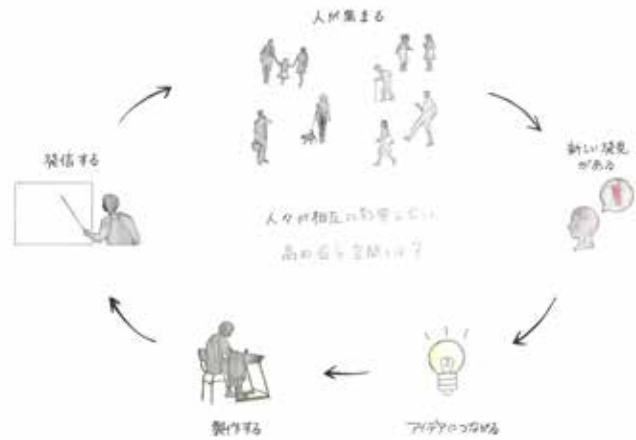
己展
長谷川 真央

塩釜口に交差する山と川のリボンを建築へ呼び起こし、リボンを人の通り道へ、残された空間に居場所を設計する。大きなスロープ、立位型会議室、スタジオを設けることで”運動”を軸に学生と地域住民を結ぶ。



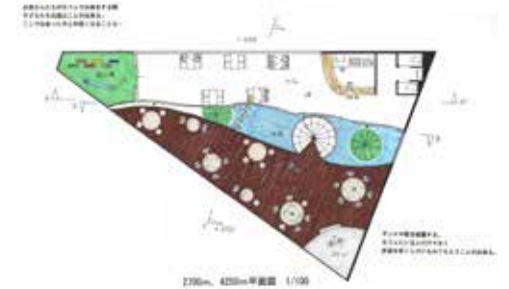
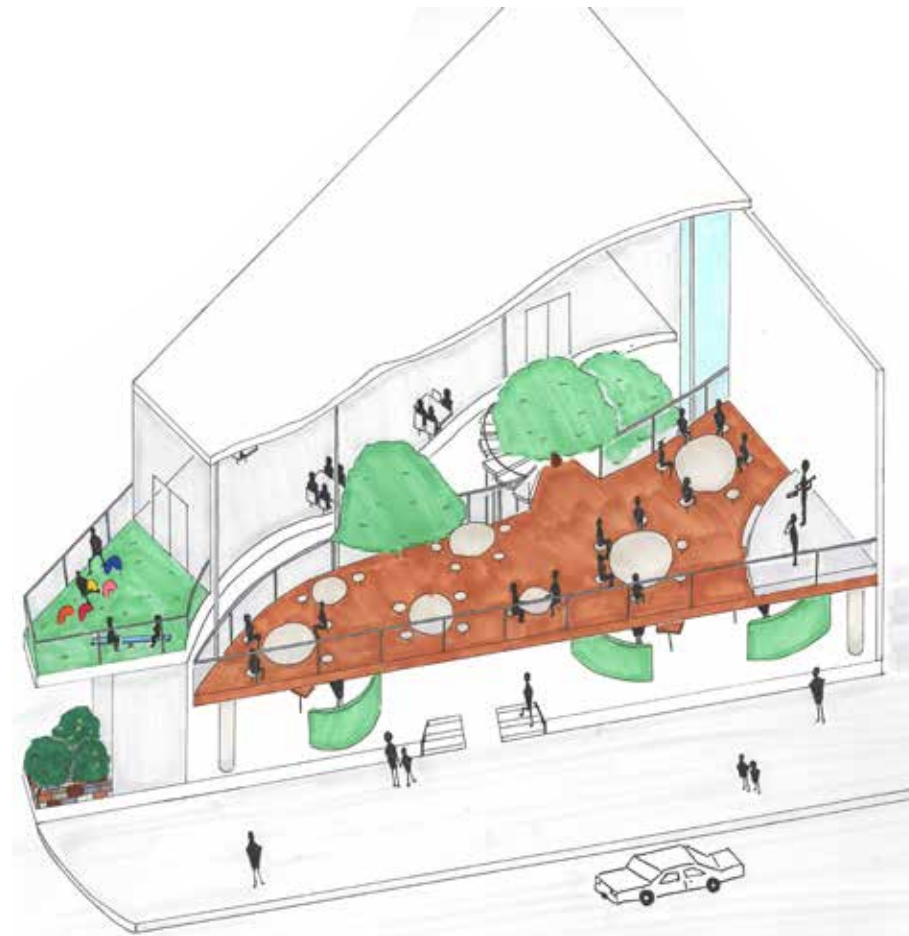
めぐり、あう
山本 梨乃

居場所がありながら、新しいひとがめぐりあい、新しい考えとめぐりあう。
それは、施設のありかたのこと、うねうねとしたこのかたちのこと、そして、私自身のこと。



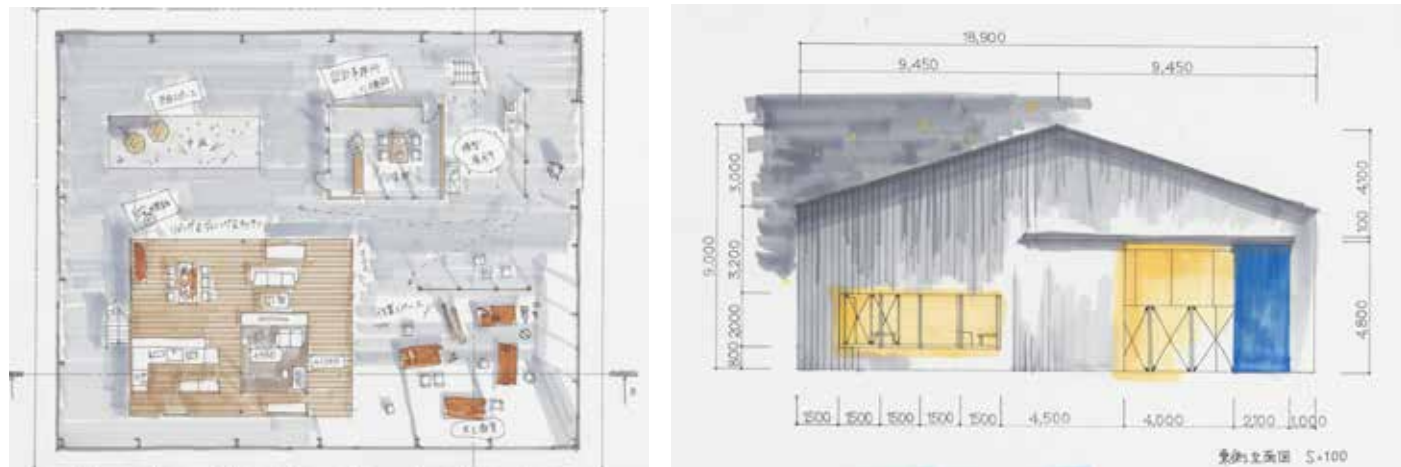
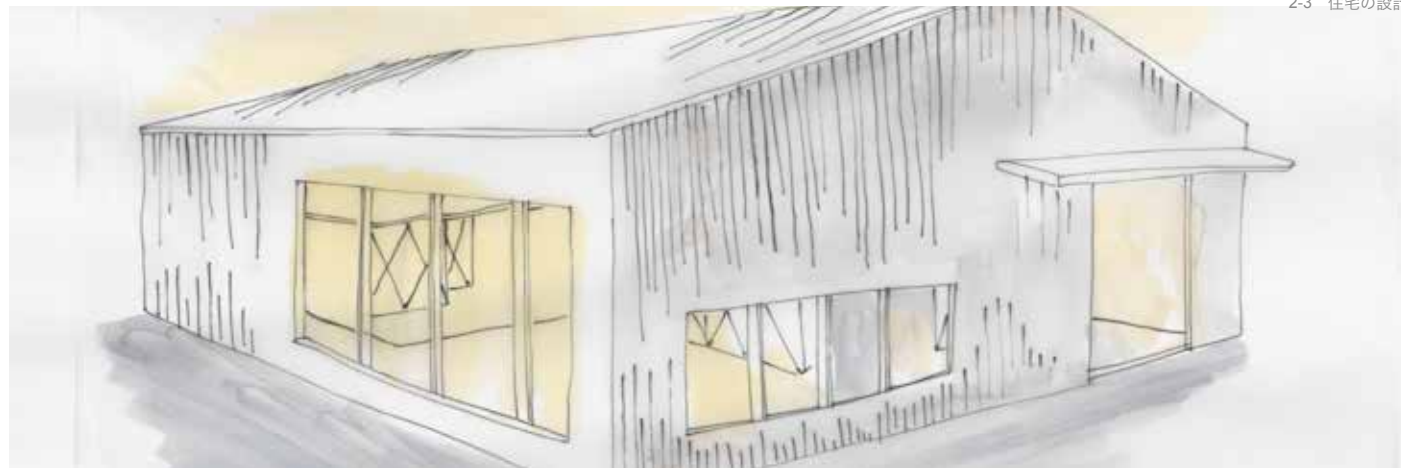
繋がると高め合う
山田 明日香

様々な職業、年齢の人が集まり影響し合えるような空間ではどんなことが起こるのかを考え、そこから行動のサイクルを導き出す。このサイクルが循環し続け、集まる人が関わりを持ち、互いに高め合えるような場所を目指した。



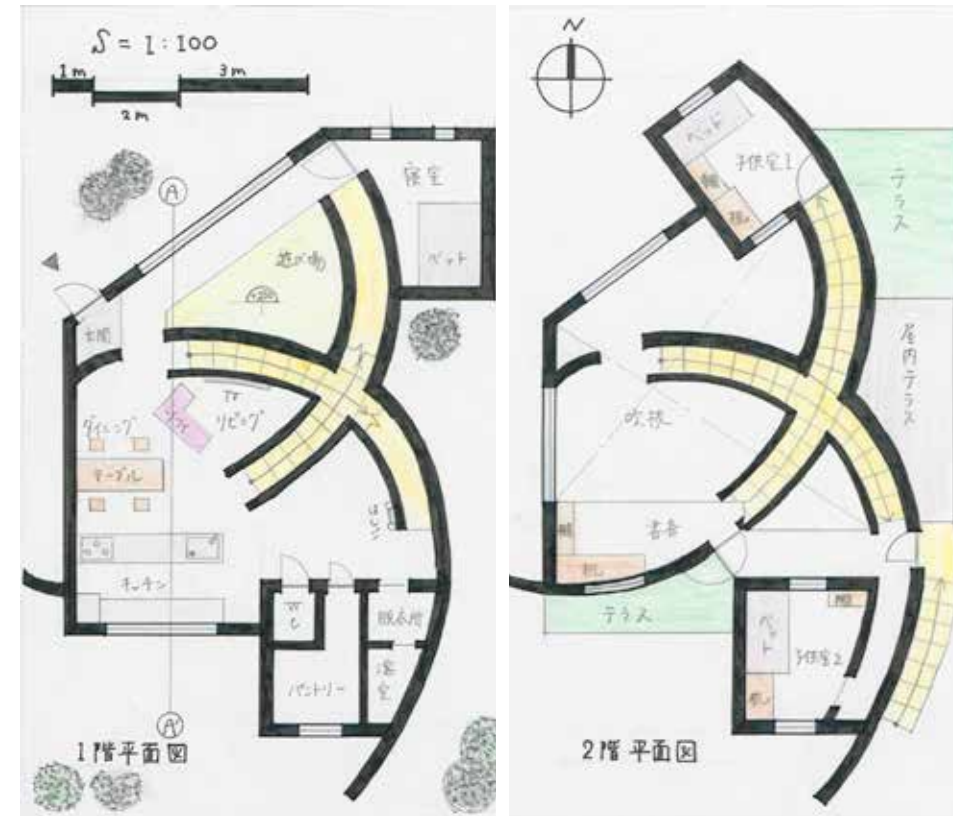
もうひとつの家族
大澤 綾彩

この住宅は一人っ子の子どもを持つ家族のシェアハウスを目的としている。
各家族の家が1つの大きな家に入っており、屋根裏を共有スペースとして利用している。
屋根勾配により、空間の利用の仕方が異なる。



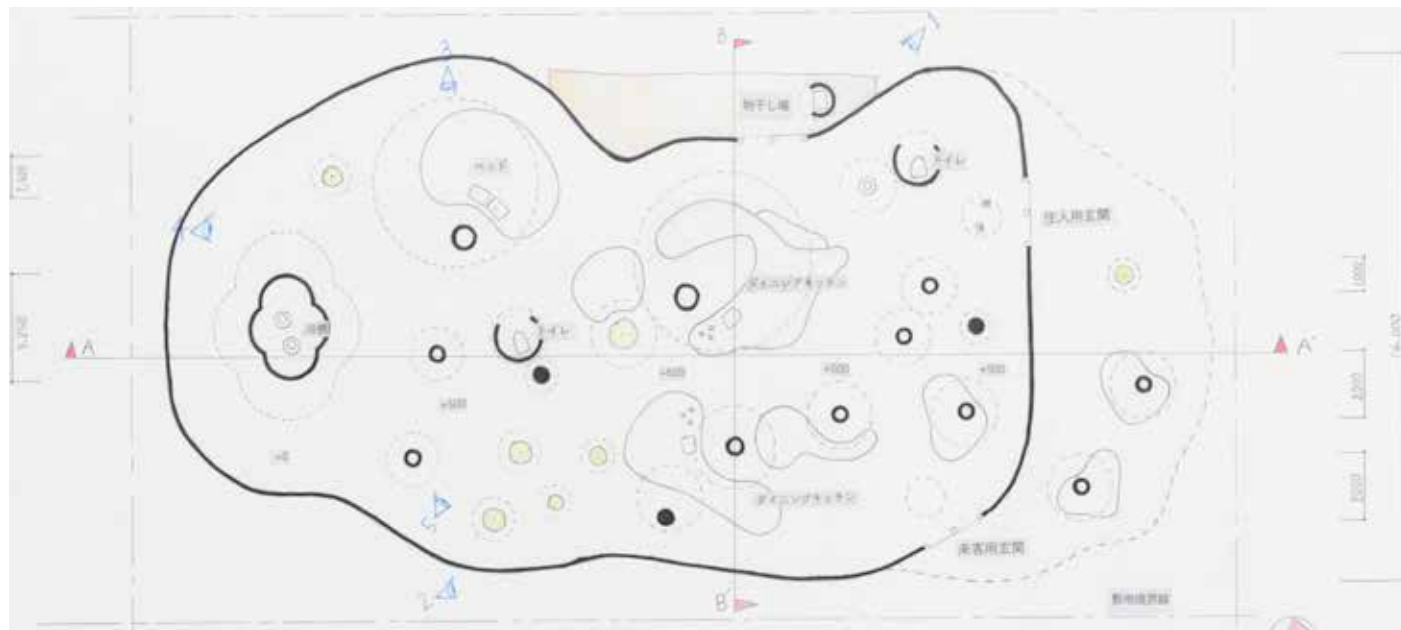
倉庫の家
芝村 有紗

この作品は、地元岡崎で自動車販売を営む会社の鉄骨倉庫のリノベーションである。それぞれの機能は、壁で分断されるだけではなく、ガラス、ブレースで緩く仕切られている。倉庫という大空間の中で豊かな暮らしの提案を試みた。



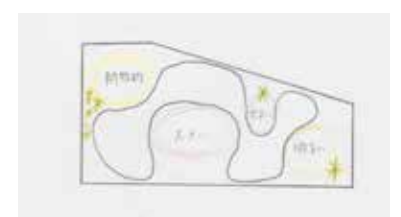
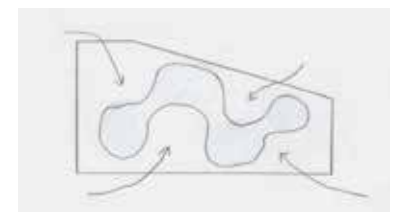
こどもが集まる家
箕浦 直

ゲームやスマホの普及により、外で走り回ったり、おままごとをしたりという子供の遊びの姿をみることは少なくなってきた。シンボルである、中央の2つのクロスする階段のまわりに、従来の遊びを展開する。子供たちに魅力的な空間を提供したい。



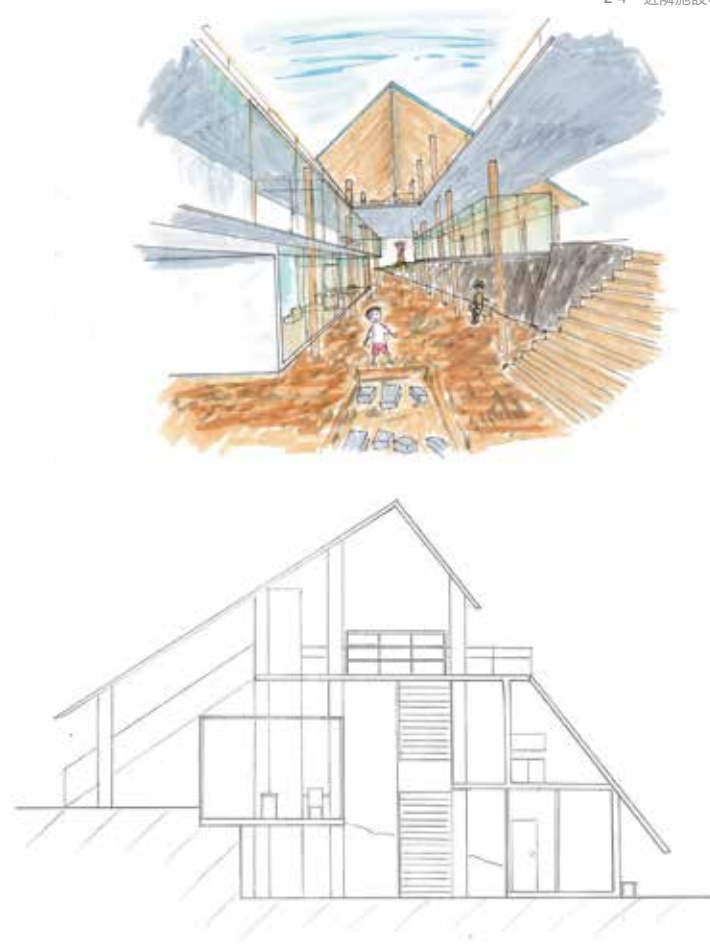
Scene 壁が作り出す風景～
長谷川 真央

本とは、紙などの軟質な素材に印刷し、製本したものだ。そんな本と同じように建築も軟質な素材で空間を作り、紡いだ場合、一冊の本になるのではないか。本提案は共用空間を一冊の本と見立て、人間性の向上、生活の小さな豊かさを得ることを目標とする。



プラザ
大見 果

建物は敷地に入り込む導線に開くようにうねうねしていて、それによって広場が生まれる。4つの広場は空間性が異なり、自分の好きな場所を見つけたり、巡るように歩いたり、その中で様々な交流を期待する。



大屋根のコミュニティーセンター
後藤 拓馬

有松の町並みは道が中心になっていると感じたので道を建築の中に取り込むように設計した。また、1つの大きな屋根が全体にかかるようにして一体感作り、屋根の下で各階に居る人同士の視線が交わるような工夫もした。



広がる輪 - 家族みんなで訪れる広場 -
玉田 朱乃

有松は商家、伝統的な街並みを残しています。商家があることより共働きの親も多いので仕事が終わるまでであることも少なくはありません。ダイニングをメインとした施設を計画する事で地域住民で生活を共有し助け合うことでコミュニケーションが取れることが期待できます。



有松ロジ
山本 梨乃

部屋と部屋でつくられる奥まった、広がった路地。
部屋に架かり重なる切妻屋根。影や光が移ろっていく。
移ろいのなか、一人でいるときも誰かとゆるりとつながっている。

講 評 会

C O L U M N

各課題は担当教員による個別講評会と、同一課題を担当した他の教員や外部クリティックを交えた合同選抜講評会の2段階で実施している。建築設計の分野では審査員が変われば評価も変わることもあるが、同時に、審査員が変わっても普遍的に評価されるものもある。学生同士で切磋琢磨して行くことで、作品の質を高める。



Grade 3

建築デザイン1 / 3年前期 / 第1課題

集合住宅の設計

担当教員 | 高井宏之、生田京子、谷田真、佐藤布武

敷地は名古屋駅から近く、都市のまん中に位置する円頓寺商店街に立地する。「那古野」界限は歴史的な街並みが今も残る地域であり、低層の住宅や商店が立ち並ぶとともに、単に衰退する商店街というだけではない独特の状況を有する円頓寺商店街に隣接している。それら条件を読み解き、そこに住む人たちが商店街とどのように関わっていくのかなどを考える必要がある。これらにより総合的に、那古野のまち全体の活性化に供するような提案であることが求められる。

建築デザイン1 / 3年前期 / 第2課題

インターナショナルスクールの設計

担当教員 | 高井宏之、生田京子、谷田真、佐藤布武

本計画は、幼稚園と小学校が一体で運営される教育施設の計画である。ここでの教育は学習指導要領に拘束されず、各校独自の方針により編成される。自由な発想を持って、児童の健やかな成長を支えるインターナショナルスクールを考えてほしい。
本計画のあり方が、子どもたちの喜びや誇りとなり、その空間がやがて思い出となるようなインターナショナルスクールを望む。

建築デザイン2 / 3年後期 / 第3課題

体験・滞在型余暇活動施設の設計

担当教員 | 高井宏之、谷田真、納村信之、高橋政志

近年、余暇時間の増大や生涯学習意欲の高まりに伴い、地域体験を通してより深く地域について知ってもらうキッカケにしようとする動きも見られます。
「焼物の街」として長い歴史と文化をもつ愛知県・常滑市を課題地とします。ここに陶芸等の制作体験施設、来訪者の宿泊・研修施設、地元の作家紹介や情報発信の場、憩いの場となる展示施設などによる、「体験・滞在」をテーマとした余暇活動施設を設計して下さい。

建築デザイン2 / 3年後期 / 第4課題

都心複合施設の設計

担当教員 | 高井宏之、谷田真、納村信之、高橋政志

この課題では従来型の施設概念を一新し、各施設の壁を取り払い、視聴覚に障害を持つ人も含めたすべての人が、アートとメディアの新たな可能性を開くことのできる施設をめざしています。
本構想の敷地は、都市市街地の骨格を形成し、市民の憩いの場でもある久屋大通公園に面した街区です。従ってこの計画においては、豊かな都市環境の中で、多様性に富んだ市民生活の鍵を提供できる「都市広場」的な性格が具備していることを望んでいます。

Grade 4

建築デザイン3 / 4年前期 / 第1課題

フィールドワーク演習

担当教員 | 高井宏之、納村信之、谷田真

那古野地区、大須観音そして名古屋駅西のフィールドワークを通じて、人々の営みに直接触れ、その現状を記録分析することにより、そこに潜む法則性や問題点を発見し提案につなげる技術を修得する。駐車場といった空地に限らず、既存建物の転用や複数の敷地への分散配置、路地や広場といった公共スペースへの提案でも可とする。

建築デザイン3 / 4年前期 / 第2課題

建築リノベーション演習

担当教員 | 高井宏之、坂本匡史、谷田真

以下の条件を満たす共同住宅を提出しなさい。
・建築ストック活用の意義とともに、既存建築の可能性の評価、及びそこから導き出す新たな建築の創造の方法を学ぶ。
・大垣市に立地する築数十年のRC造の社宅をリノベーションが対象
・用途は集合住宅をするが、新たな機能を提案する。
・既存躯体を活かす、構造補強を行うなど、リノベーションでは必ず求められる基本的作法も一部レクチャー形式で学ぶ。



Scene ~ 壁が作り出す風景 ~
伊藤 綾奈

連続的に同じ住戸が並ぶ現在の集合住宅は、人々の生活を画一的なものとし、コミュニティを制限しているのではないだろうか。この集合住宅には、均質な空間はない。所々に散らばる中間領域や開口を通して垣間見える生活風景は、人々を引き込み、新たなコミュニティを作り出す。



近年、店舗併用住宅が歯抜的に専有住宅に建て替わることが多いという課題がある。円頓寺商店街には店舗併用住宅や空き家、空き地が多い。この先商店街から住宅街へと変わっていくのではないかと予測する。そこでこの円頓寺商店街は商店街ではなく住宅街へと移行すると考え、本課題では住宅街のような集合住宅を提案する。

路地の多様性



人が溢れパブリックスペースとなる。



生活が溢れコモンスペースとなる。



狭い路地はプライベートな空間となる。



立体路地
奥村 匠真

近年、商店街には店舗併用住宅が歯抜的に専有住宅に建て変わる事が多いという問題がある。対象敷地となる円頓寺商店街にも店舗併用住宅や空き家、空地が多い。そのため商店街でなく、住宅街のような集合住宅を提案する。



CONCEPT



家と道の間の軒下空間



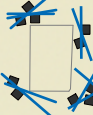
趣味が溢れる
オープンスペース

DIAGRAM

各住戸に1つずつオープンスペースを設け視線の操作を行った。



中に吸収する



2から3戸が
向き合う



交わらない



BAKERY
FLOWER SHOP
BARBER
BAE



DANCE
GUITAR
PICTURE
DIY



GARDENING
YOGA
TOBACCO
BICYCLE

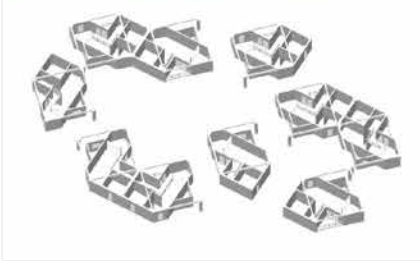


PERSONALITY

早川 大貴

古くからある建物は情緒として残り、価値の下がった建物はリノベーションとして再生される円頓寺商店街。この地に建築という種を植え、建物と共に住む人、訪れる人が成長し新たな円頓寺商店街を生み出す。

PENTAGARDEN



PENTAGARDEN

山下 隼矢

独立した平面を基本とすることで住戸の間隔が空き従来の集合住宅にはない四方に開口を設けた住戸を形成できる。さらに中心の緑が住戸の間隔の隙間を通して町へ溢れ出す。この集合住宅は、円頓寺の町を緑を感じながら生活できる町へと変えていく。



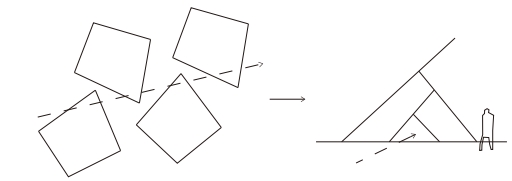
Trio Patio

隙間をめぐるインターナショナルスクール

CONCEPT

多様な選択肢というコンセプトから、より GL に近い、高さの低いデッキを巡らせ、屋外空間と内部空間をつなぎ、北側の遊歩道の緑豊かな穏やかな空気感を敷地内に取り込むように空間同士を紡いでいった。

DIAGLAM



PERSEPECTIVE DRAWING



▽高学年教室



▽低学年教室



▽幼稚園教室

Trio Patio

鎌内咲甫 / 久保響子 / 牧野明日香

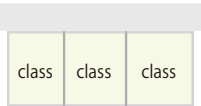
幼小一貫のインターナショナルスクールにおいて、空間の複雑性と高さ方向の広がりグラデーションに変化させながら操作することで、子供の時期ごとの精神的成長と身体的成長に適応した場を設計する。



1. 平面計画

教室配置計画

現在の学校は片廊下型のプランが多く、クラス同士をつなぐ壁は子供たちに多様な空間を作ることができるのではないかと考えた。



クラスを繋ぐ壁は子供の活動を生まず、交流を分断している。



クラスを離すことで共有空間が生まれる。



複雑な動線の中にクラスを組み込むことで居場所を作り、クラス同士の交流を生む。

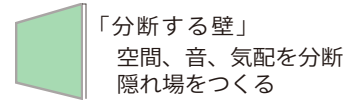


2. 断面計画

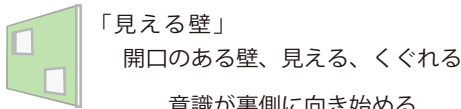
要素を変え、繋がりと分離を明解にする

子供にとって壁は思考力を行動力を学ぶ場であると考える。

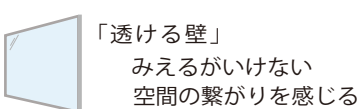
壁に3つの要素を持たせて分類し、別々で行われていた活動が混じり合うことを期待した。



「分断する壁」
空間、音、気配を分断
隠れ場をつくる



「見える壁」
開口のある壁、見える、くぐれる
意識が裏側に向き始める



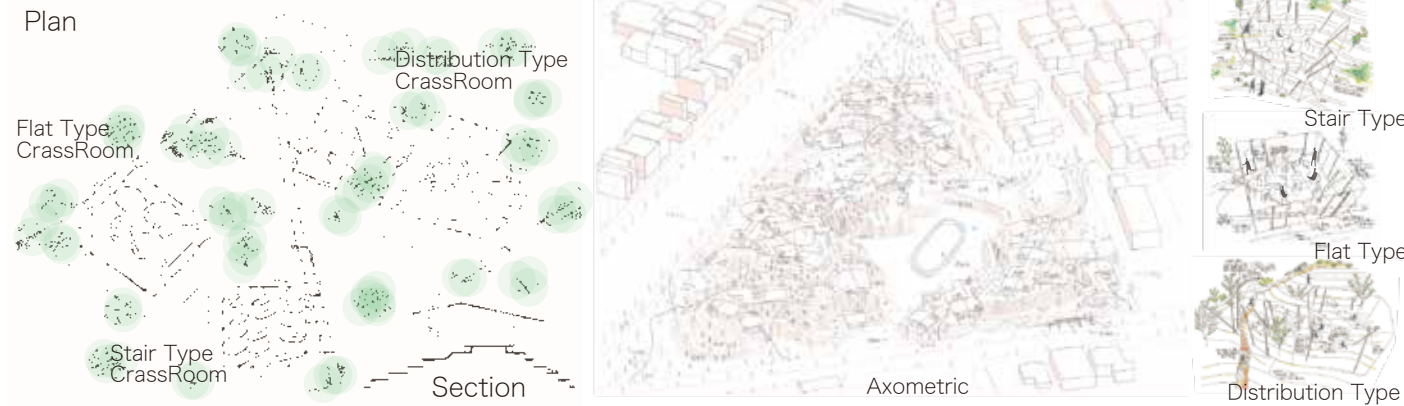
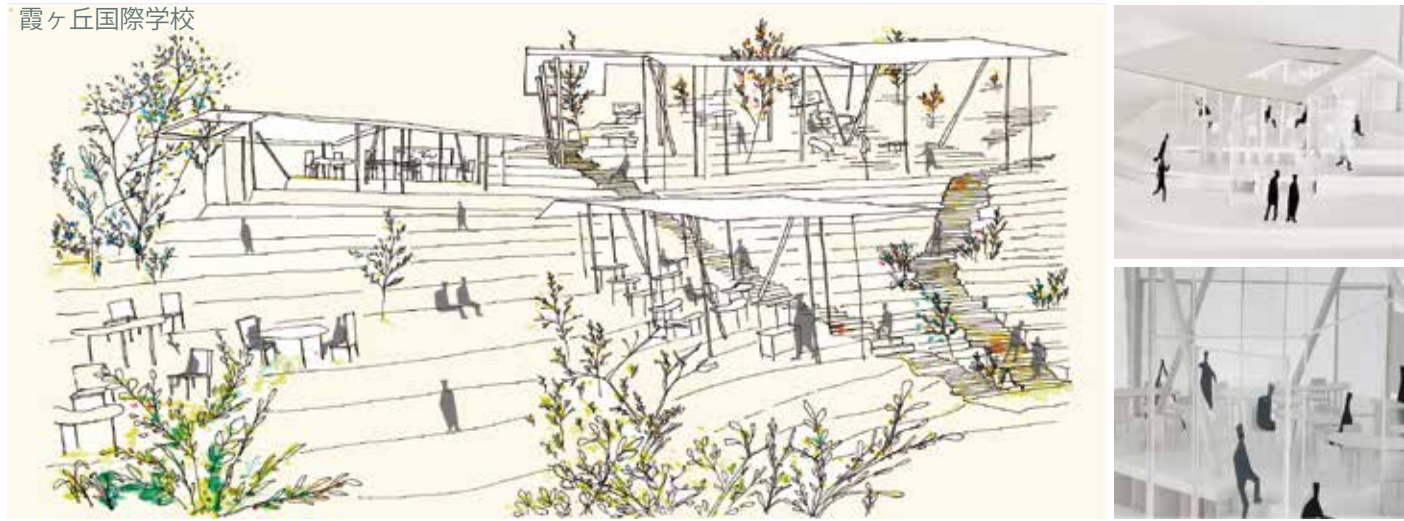
「透ける壁」
みえるがいけない
空間の繋がりを感じる



活動を溢れさす壁

奥村匠真 / 改井遥香 / 加藤駿一

自由で自発的なこどもの育成のために周辺環境に対応し、積極的に活動できる空間づくりを目標とした。あらゆる行為を接続、分断する「壁」に着目し、活動同士を結ぶ壁が新たな学びを生む要素となれないかを考察した。



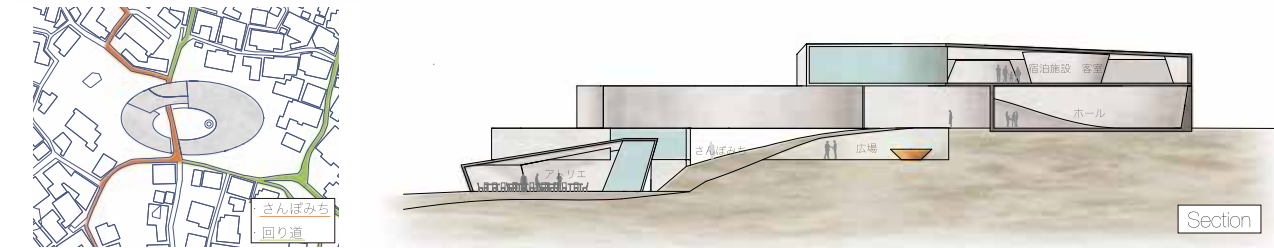
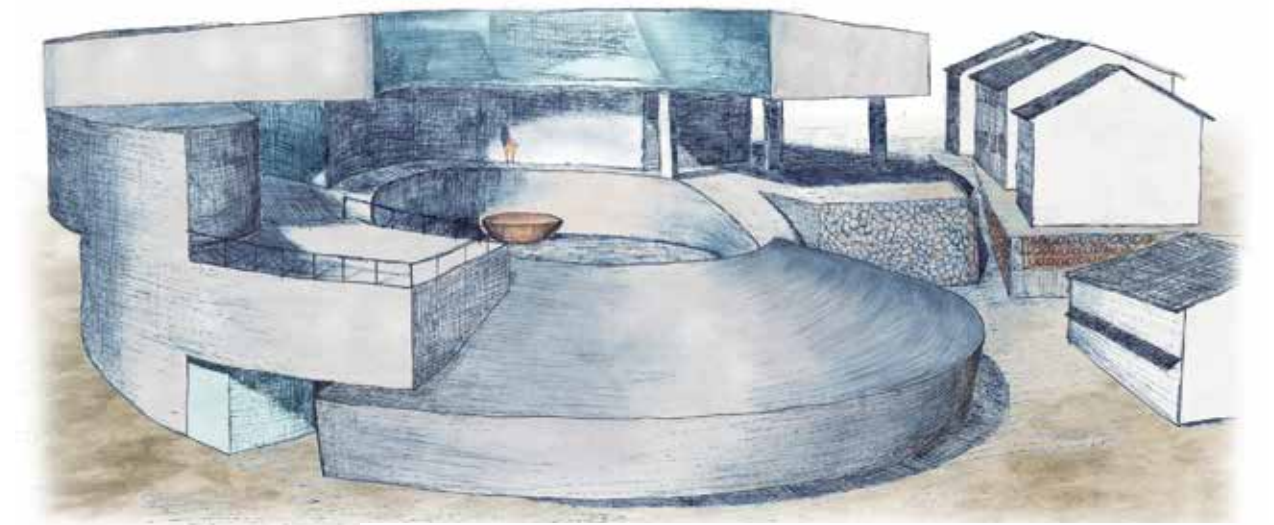
霞ヶ丘国際学校
伊藤綾奈 / 生田めぐみ / 半澤龍

内外の境界は、教室という容器を作り出す。そこで山のある学校を考えた。等高線を教室内へ介入させ、従来の輪郭を曖昧にする。山が光と風を呼び寄せ、新しい気候の中で子供達が自由に学ぶ環境を作った。



入会地
水谷匠磨 / 溝渕蓮 / 山下隼矢

この敷地は川と隣接している。その川を取り込み、敷地内に湿地を作り出した。子供たちは湿地の様々な変化によって、学校生活に変化が生まれる。田植えや昆虫採集、水遊びなど。教室棟の余白は他クラスとの交流を生み、子供たちの遊び場が多く設けられている。



さんぽみちとその回り道に囲まれた敷地を選定。
さんぽみちの新たな道しるべとなる。

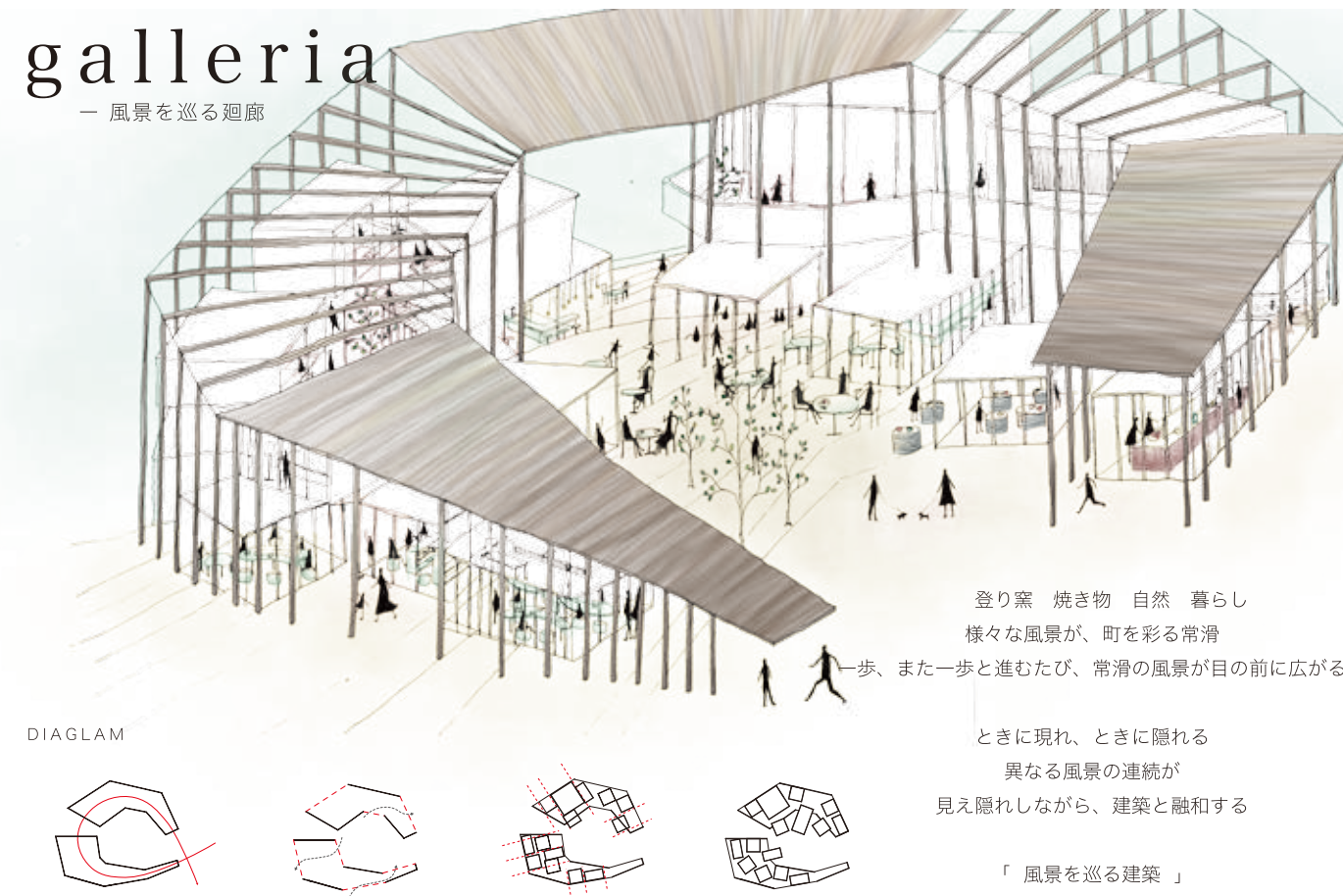
敷地の高低差に合わせて、それぞれの活動同士が干渉しないようにボリュームを配置。建物を巡っているうちに外の景色が大きく変わる。

大きな手
五十川 雄貴

焼き物の町、常滑に m 大きな手のような建築を設計した。大きな焼き物を作り上げるようにさんぽみちを歩く人、建物内に日時計のように刻まれ時、物のサイクルをまわし常滑という街の賑わいを増幅することを目指した。

galleria

— 風景を巡る廻廊



galleria
久保 響子

独自の文化をもつ「常滑」で設計を行うにあたって、常滑の暮らし、自然、常滑焼の窯など、常滑の魅力一つ一つが織りなす「風景」に着目し、これらの風景を見え隠れさせながら、建築の中に融和させる宿泊余暇施設を提案した。



大屋根とトコナメコレクション
早川 大貴

見ると泊まるが明確に分かれた体験型宿泊施設を提案する。ここに流れる時間や雰囲気を壊さぬよう周りに溶け込む大きな片流れ屋根の宿と、新しい常滑を表すようなカラフルな体験型美術館。2つの場が共存して地域に根付いた施設となる。



地形の力
水谷 匠磨

泉常滑市の丘陵地帯に宿泊施設を提案した。丘陵地帯の傾斜にヴォリュームを置いて行くことで、ヴォリュームと地面の間に中間領域が生まれる。中間領域にアクティビティが生まれやすく、そういった場所にはカフェやロビーが設けられる。



2f 平面図



1f 平面図



傾-KABUKU-
阿知波拓 / 原田祥吾 / 宮本一平

メディアや電子技術の発達によって、情報が簡単に手に入り外出することが減ってきている現在の社会には、リアルな空間や人との直接的な出会いが大事になってくる。そこで、多様な空間やつながりが生まれる傾斜空間を備えた複合施設を提案する。

plan

・傾斜で変わる用途



通路、店舗



目線のずれ、スロープ

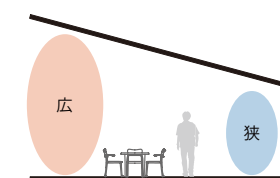


休憩、座席

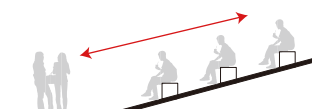


階段

・傾斜が作る空間



空間の違い



視線のつながり



マングローブの木の下で
奥村匠真 / 早川大貴 / 林果凛

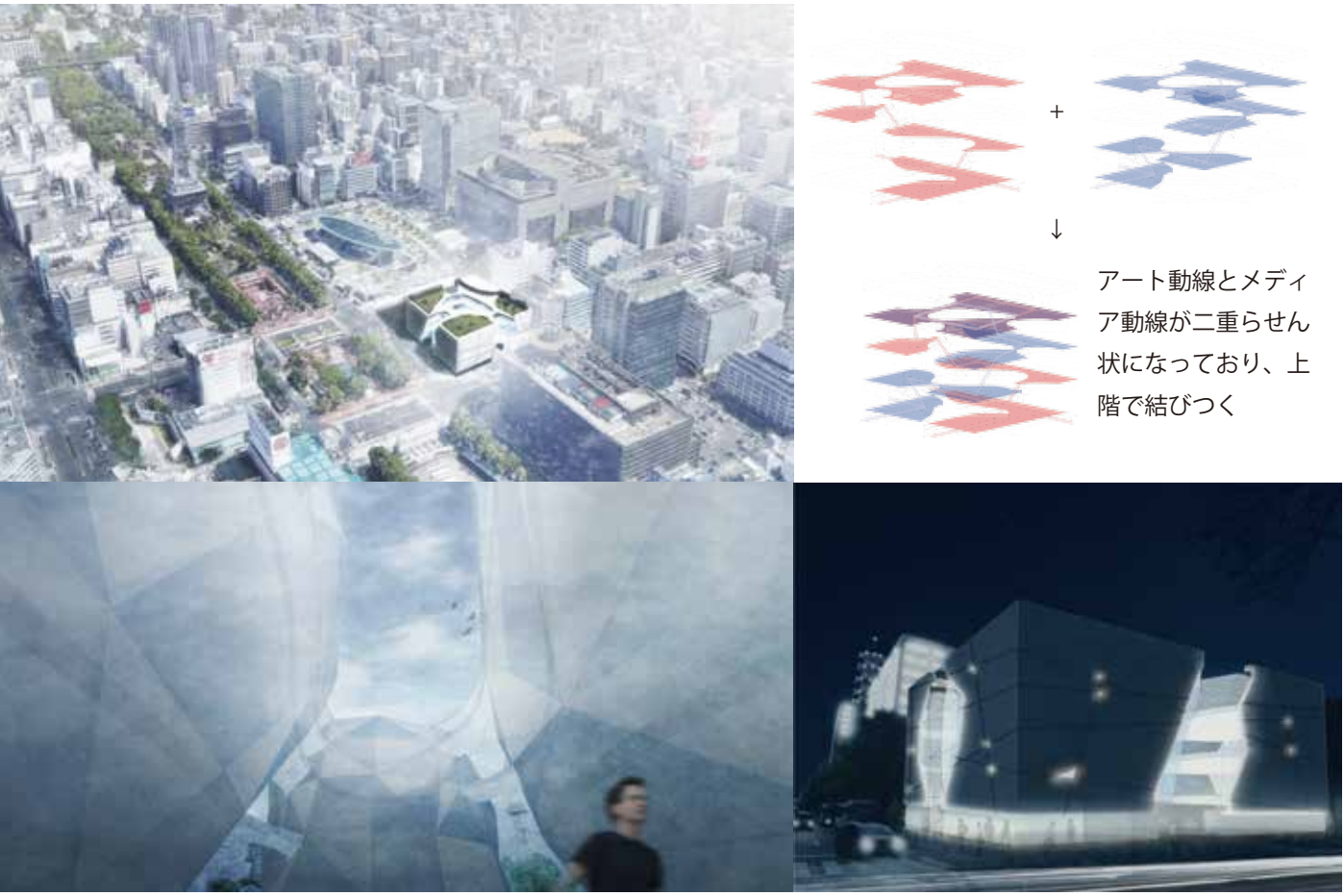


本の存在意義を再確認し、機能主義によって建てられたビル群と対照となる“ゆるさ”を求め曲線と植物を組み合わせた複合施設を提案する。読書をしながらちょっとだけ休憩できることがこの場所に建つ意味を持つ。



Hangout
生田めぐみ / 河合息吹 / 鷺田萌

せわしない時間が流れる榮に自分の目的以外のものに期せずして出会い、新たな発見ができるような施設を提案する。場所ごとに違う過ごし方ができるくつろぎのテラスや、人々の交流など隔たりのない空間の中でさまざまな交流を生む。



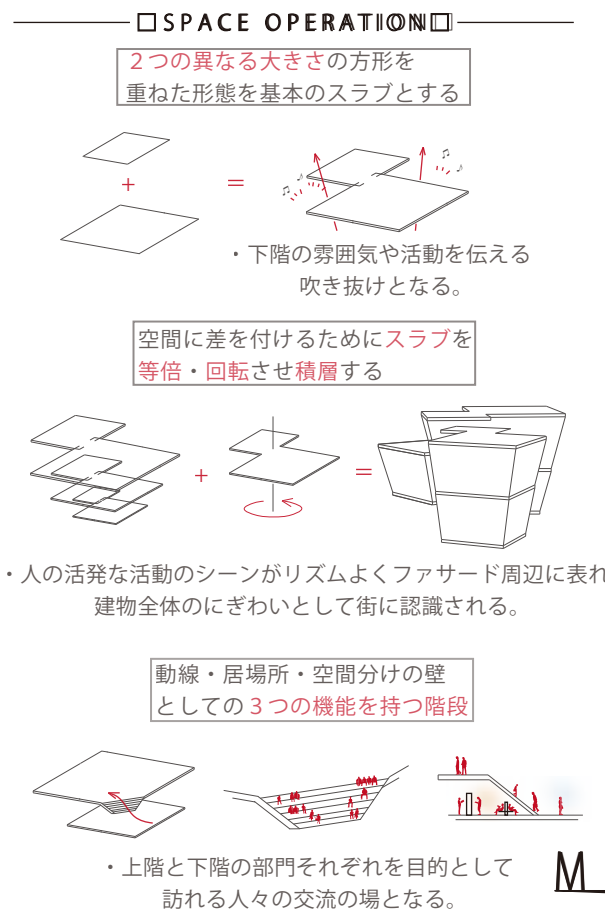
Valley
川村航大 / 鈴木将太 / 溝渕蓮

オアシス 21、中日ビル、久屋大通公園の噴水。これら 3 つの水をテーマとしたランドマークをもとに水の流れを導き、ボリュームを削り取ることで溪谷を生み出す。この建物の溪谷から人や情報を誘い込み、まちの賑わいを施設内に取り込む。



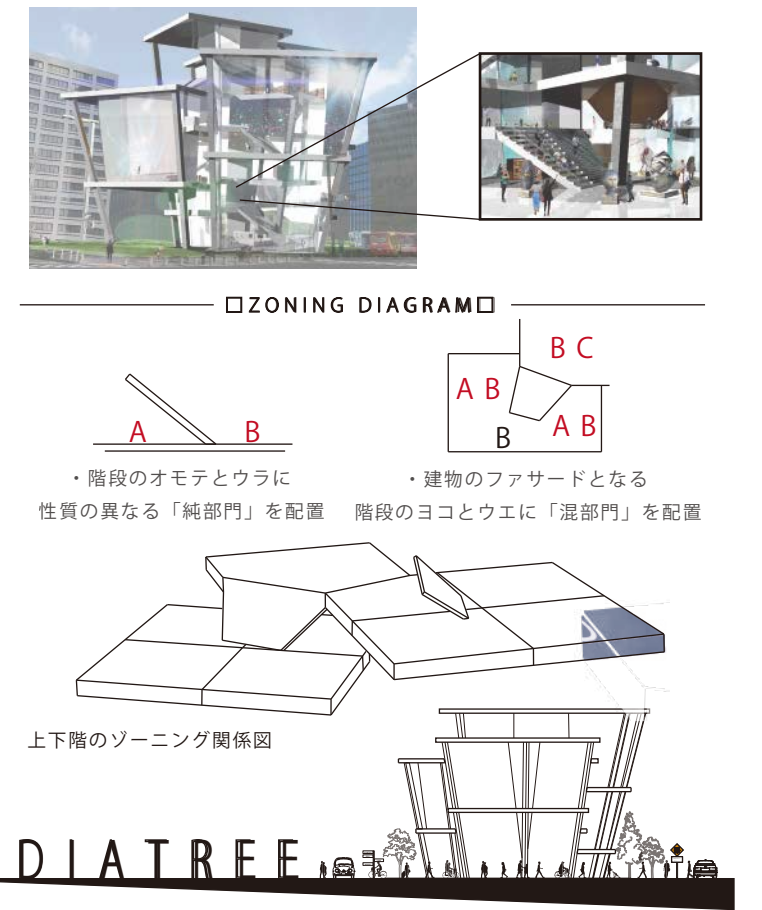
柱の森
石塚万純 / 伊藤綾奈 / 木村仁美

現代を生きる人々は、ネットで情報を簡単に獲得できるようになった。情報が錯綜する街に対して、開放的な建物とすることで情報を中に滞留させず、誰もがいつでも様々な情報の出会いや体験を可能とさせる。



MEDIATREE
新井峻太 / 飯田兼都 / 改井遥花

目指したのは一度に色々な分野に触れ、経験や知識を得た人が新たなモノを発想できる場である。「創造性豊かな人々を創出する」このメディアツリーと「最先端の知を世に発信する」オアシス 21、この 2 つが榮を発展させる。



街に開かれたゼミ室



名古屋駅西は
たくさんのものと過去の名古屋裏の面影の残る雑多な街だ。

この地に2027年、リニア中央新幹線が開通する予定である。街の景気が急速に変わりつつあるこの場所に名古屋駅周辺に通う学生たちによる、街に開いたゼミ室を提案し、大好きなこの街の風景を残したい。

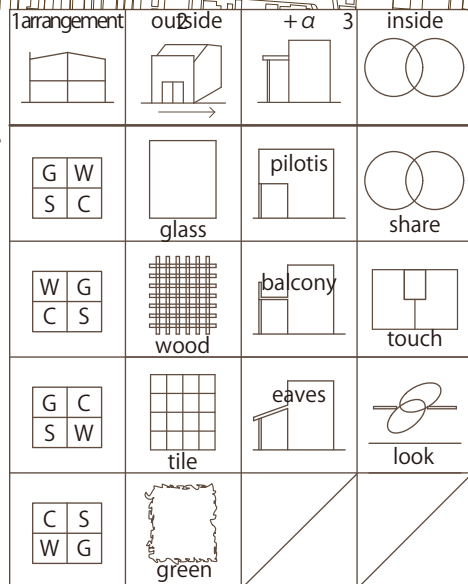
本提案は影響力の強い名古屋駅西銀座の通りに、街の景色を基に私的に抽出した4つのルールを用い設計する。

このゼミ室は、学生の学びの場の提供・学生と観光客を繋ぐ・学生と地域を繋ぐ・地域の活性化をもたらす。専門学校が増えるに従い、ゼミ室も同様に都市のヴォイドに展開していく。それは、街は新しいカラーを纏うだろう。

20年後、国際都市名古屋における交流の拠点・ビジネスの中心・文化の出発点・あるようどこにもない、特別な都市が住民にとって愛着のある街であることを願う。

街に開かれたゼミ室

水谷 真由美



この街はすでに多くの教育施設を持っている。リニア開発に伴い、専門学生のさらなる増加を仮定し、そこに通う学生たちが授業後に使う研究室や実際の仕事を体験できるゼミ室を提案する。



01. 舞台

岐阜県大垣市八島町
2362-1



現在の外観

本提案はこの土地に街に開かれた図書館兼集合住宅のリノベーションである。

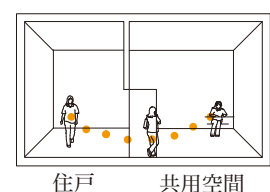
02. 登場人物



これらの住民が図書コーナーの運営を行う

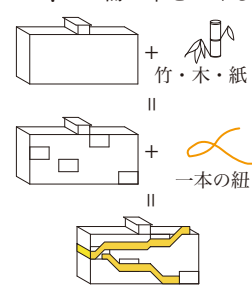
03. 住戸説明

住戸は、隣の図書コーナーである共用空間と扉一枚でつながる。共用空間は時に住民の子供部屋となったり、キッチン、趣味室、寝室になりうる。



住戸 共用空間

04. 一冊の本をつくる



04. 提案



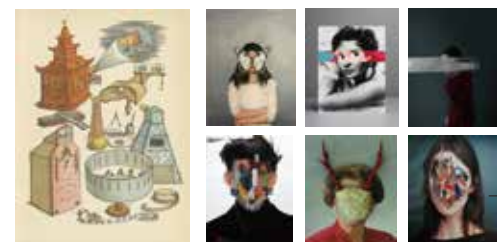
提案後の外観

この本は、大垣の過去の歴史を集積し、交流による大垣の未来のシナリオを作る新しいシンボルとなるだろう。

BOOK AND LIFE

水谷 真由美

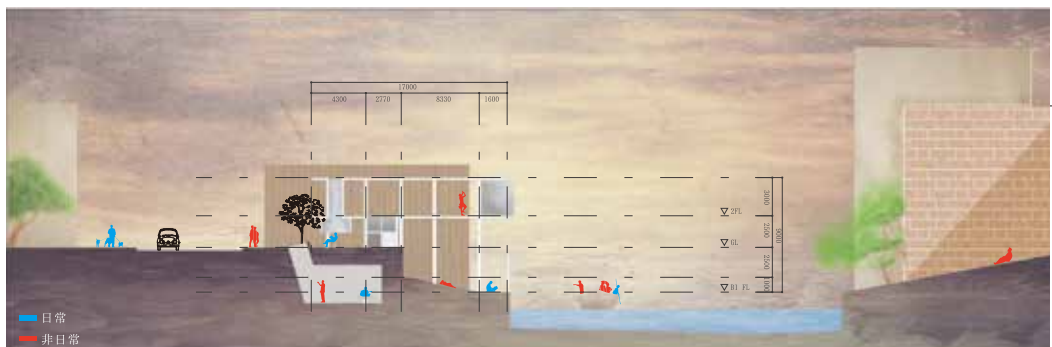
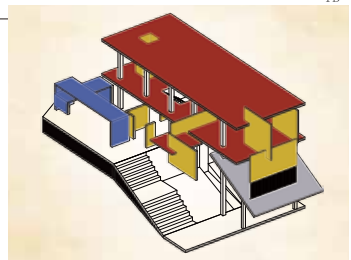
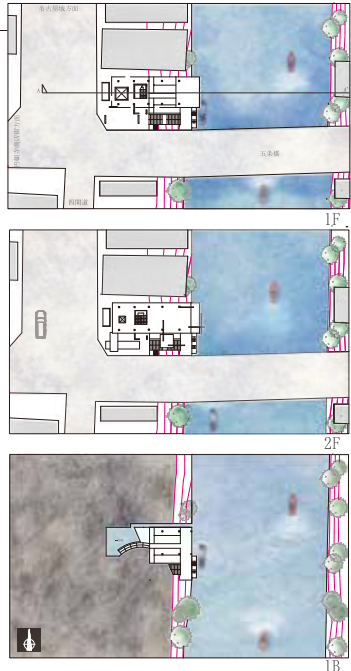
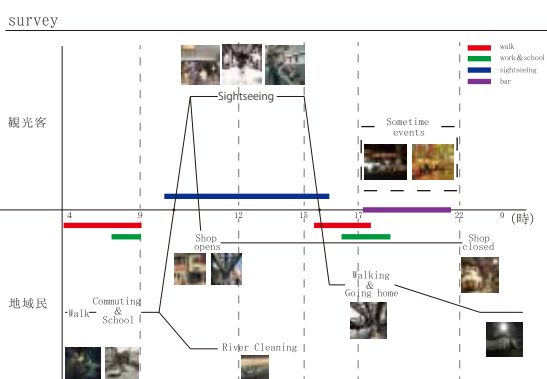
本とは、紙などの軟質な素材に印刷し、製本したものだ。そんな本と同じように建築も軟質な素材で空間を作り、紡いだ場合、一冊の本になるのではないか。本提案は共用空間を一冊の本と見立て、人間性の向上、生活の小さな豊かさを得ることを目標とする。



<faceless art> 顔の一部が何かによって隠されている。隠されていること、欠けていることを見る見られるの関係を解体する。自分は何を見ているのか、何に見られているのか。それとも見てなんていないのか。



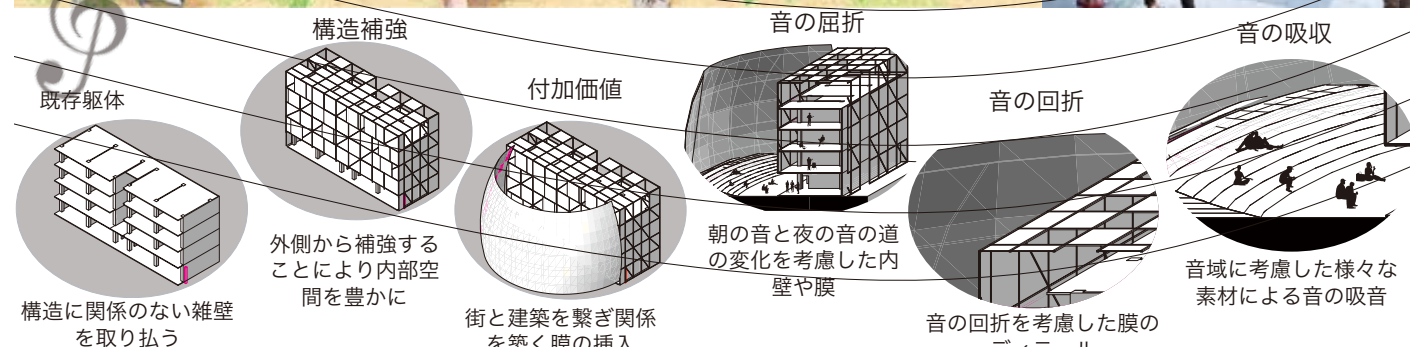
既存の屋根神像を残し、フォーリーがあることで日常をおくる者は神像を身近に感じ、非日常をおくる者は仮面を脱れるように見上げる行為を残した。



kaleid scope

梶浦 悠翠

中世ヨーロッパで流行した様々な scope 玩具はモノが見られる対象であるという関係があり、見る見られるの指向性は縛られていた。建築も同様に開口からの見る見られるの関係は指向性に溢れているのだ。



奏音住宅

鳥居 寛

近年、住宅間での音のトラブルを聞く機会は少くない。しかしそれは音が通る動線が間違っているからである。本提案では時間、季節ごとに変わる音の道を建築により柔軟に操作することにより、快適かつ豊かな暮らしを提案する。

名城大学建築学科優秀作品集

発行 2019 年 8 月 1 日 初版発行

編集 佐藤布武

発行 名城大学理工学部建築学科
〒468-0052
愛知県名古屋市天白区塩釜口 1-501 名城大学理工学部建築学科
052-832-1151
<http://wwwra.meijo-u.ac.jp/>

本書の無断転写、複製、複写の一切を禁ず

Printed in Japan

Copyright ©Meijo University